シーニックバイウェイ北海道

萌える天北オロロンルート

ルート運営活動計画

平成 20 年 2 月

萌える天北オロロンルート運営代表者会議

目　次

1．ルート概要
（1）ルート名称 …… 1
（2）位置とルート …… 2
（3）地形と自然環境 …… 3

2．活動テーマ …… 4

3．ルートストーリー
（1）ストーリー1 景観 …… 5
（2）ストーリー2 食 …… 9
（3）ストーリー3 環境保全 …… 11
（4）ストーリー4 レクリエーション …… 13
（5）ストーリー5 歴史・文化 …… 15

4．ルートの運営体制
（1）活動団体 …… 17
（2）運営体制の基本的な考え方 …… 20
（3）組織の役割 …… 21
（4）プロジェクト制について …… 22
（5）短中長期運営スケジュール …… 23

参考資料 …… 24
参考資料1　これからのプロジェクト …… 25
（1）プロジェクトの構成 …… 25
（2）平成 20 年度のプロジェクト内容 …… 26
（3）平成 20 年度のプロジェクトスケジュール …… 28
（4）長期展望プロジェクト …… 28
参考資料2　これまでの活動実績 …… 29

1. ルート概要

（1）ルート名称

ルートの名称は、北海道北西、日本海に面して長く連なる９つのまちをイメージさせる言葉を組み合わせました。

萌える天北オロロンルート（もえる　てんぽく　おろろん　ルート）

【萌える】

９つのまちが位置する留萌地域の「萌」に私たちの想いを託しました。『萌』は北の厳しい風土に耐え、ようやく春の若葉が萌える光景をイメージするとともに、萌し（きざし）の意味から、私たちがこれから展開するさまざまな活動へのバイタリティとエネルギーを表現しています。

【天　北】

昔から北海道北部の広い地域を指す言葉です。留萌地域を『天塩国』と称していた明治時代、『北見国』を結ぶ交通ルートなどを『天北』と呼んでいました。古くから親しまれている言葉に歴史を偲ばせるとともに、先人が築き上げた文化や風習を大切にしていこうという想いを込めました。

【オロロン】

オロロン鳥は、私たちを取り巻く自然を見つめなおす指標として、大きな役割を果たしてくれています。また、この知名度は『日本海オロロンライン』の名称からも良く知られる存在となっています。さらに地域内では『日本海オロロンライントライアスロン国際大会』が象徴するとおり、９つのまちが手をつなぐことの重要性や大切さをこの言葉に込めています。

■オフィシャルフォント

ルート名称に込められたバイタリティと優しい人柄を表現するために、日本の風習に伝わる筆文字の中から、奇席文字をオフィシャルフォントとしました。年配の方にも親しみ深く、また、外国人にも日本らしさを感じていただけることをねらいとしました。

萌える天北オロロンルート

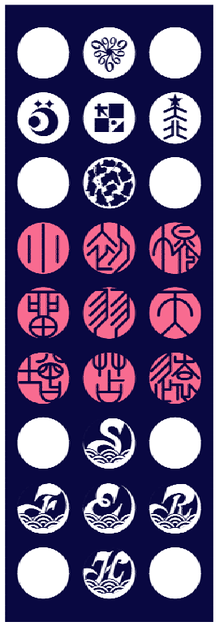
DCG 奇席文字 W7

■オフィシャルマーク

日本古来から伝わる『のぼり』の文化･風習に基づき、武者絵（武者のぼり）や戦国のぼり旗の本来の機能にヒントを得たデザインとしました。

９つのまちから構成する共同体であることを様々な形で表現するとともに、個のまちのアイデンティティも大切にしていく気持ちをのぼり旗に込めました。

また、５つのルートストーリーをデザインに取り入れることにより、シーニックバイウェイルートとしての硬い決意を表現するとともに、ルート内外さらには海外への発信も含めたプロモーション等にも応用可能なパーツとしてデザインしました。



【イメージカラー】

特色使用
- ブルー系 DIC435
- ピンク系 DIC275

プロセスカラー（４色）使用
- ブルー系 C100% M095% Y050% K000%
- ピンク系 C000% M059% Y020% K000%

【ルートの一体感を表現】

数字の『９』を９つ使って風車や花を表現したデザイン

９市町村の区域を１つの星に見立てたデザイン

【ルート名称の3つの言葉】

萌える

オロロン

天北

【9つのまちの頭文字】

小平町

初山別村

幌延町

留萌市

羽幌町

天塩町

増毛町

苫前町

遠別町

【５つのルートストーリー】

Scine
（景観）

Food
（食）

Ecology
（環境保全）

Recreation
（レクリエーション）

Histry
（歴史･文化）

（2）位置とルート

「萌える天北オロロンルート」は、北海道の日本海側北部、留萌支庁に位置し、北から幌延町、天塩町、遠別町、初山別村、羽幌町、苫前町、小平町、留萌市、増毛町の 9 市町村が縦に連なるエリアです。

このエリアは、北海道の北西部に位置しており、南北 150km、東西 67km の南北に長い地域です。管内の総面積は 4,020km² で、北海道の総面積の 4.8%の広さです。

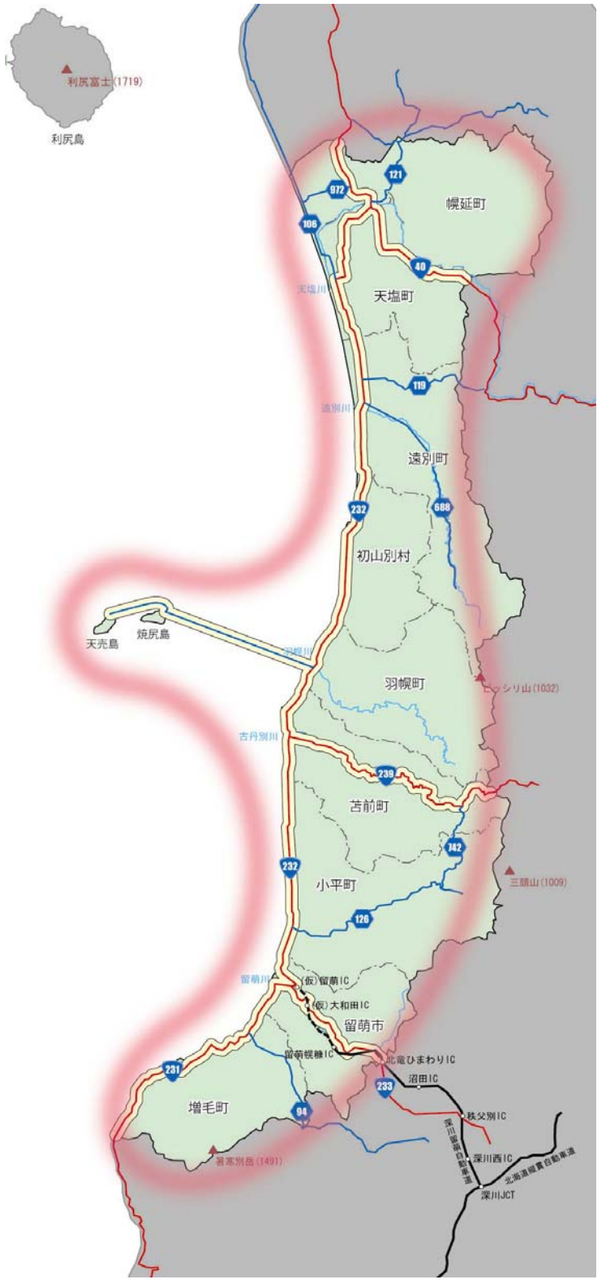
主に関係する道路としては、海岸線を縦走する国道 231 号、232 号、主要道道稚内天塩線による「日本海オロロンライン」、加えて内陸部と連続する国道 233 号、239 号などがあります。また、天売島、焼尻島を結ぶフェリー航路があります。

【基幹ルート】 国道 40 号、国道 231 号、国道 232 号、国道 233 号、国道 239 号、フェリー航路

【関係する道路・航路】

市町村	関係する道路等
幌延町	●国道 40 号 ●道道 106 号稚内天塩線 ●道道 972 号浜里下沼線 ●道道 121 号稚内幌延線
天塩町	●国道 40 号 ●国道 232 号 ●道道 106 号稚内天塩線
遠別町	●国道 232 号 ●道道 688 号名寄遠別線
初山別村	●国道 232 号
羽幌町	●国道 232 号 ●羽幌沿海フェリー（航路）
苫前町	●国道 232 号 ●国道 239 号 ●道道 742 号霧立小平線
小平町	●国道 232 号 ●道道 742 号霧立小平線 ●道道 126 号小平幌加内線
留萌市	●国道 231 号 ●国道 232 号 ●国道 233 号
増毛町	●国道 231 号 ●道道 94 号増毛稲田線

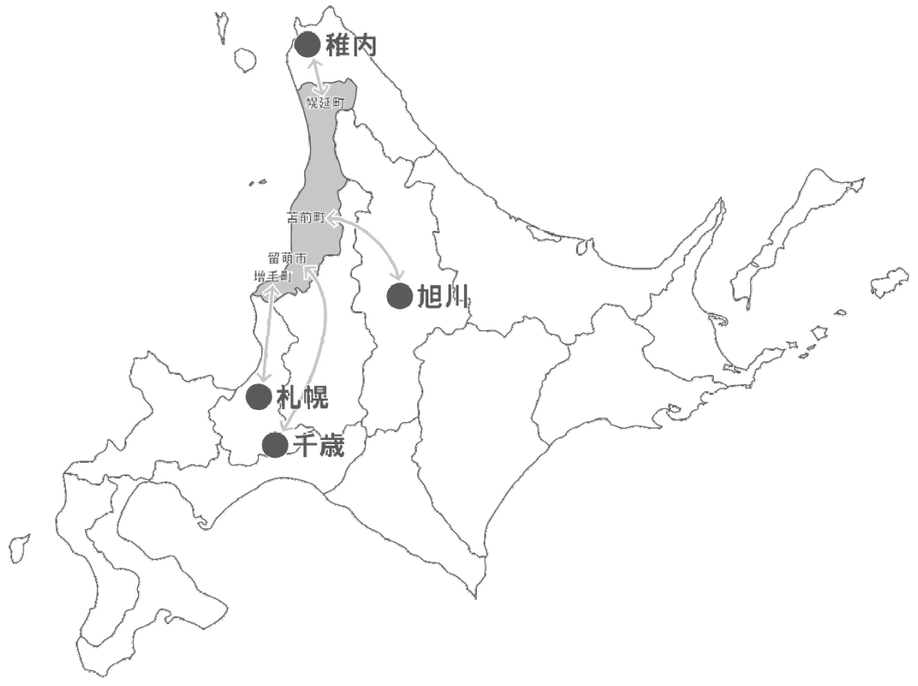
●主に海岸部を走る道路
●主に内陸部を走る道路



■各市町村内の主要道路距離（基幹ルート）

	国道 40 号	国道 231 号	国道 232 号	国道 233 号	国道 239 号
幌延町	12.6 km				
天塩町	22.1 km				
遠別町			24.5 km		
初山別村			24.2 km		
羽幌町			11.2 km		
苫前町			16.4 km		46.0 km
小平町			24.5 km		
留萌市		7.3 km	7.8 km	22.3 km	
増毛町		33.7 km			

■ルート近郊の空港との道路距離



幌延町	～	稚内（稚内空港）	55 km
苫前町	～	旭川（旭川空港）	150 km
留萌市	～	千歳（新千歳空港）	190 km
増毛町	～	札幌（丘珠空港）	110 km

（3）地形と自然環境

ルート内の地形は、中南部では海岸近くまで丘陵が迫る地形が多く、留萌川、古丹別川、羽幌川等の河川沿いに平坦地が分布しています。北部には天塩川下流域から北側にかけてサロベツ原野が広がっています。

また南北 194km におよぶ海岸線は、「日本海オロロンライン」として親しまれ、暑寒別岳等の山並みや、天売、焼尻島への眺望、夕日の海岸等、美しい自然景観を楽しむことができます。

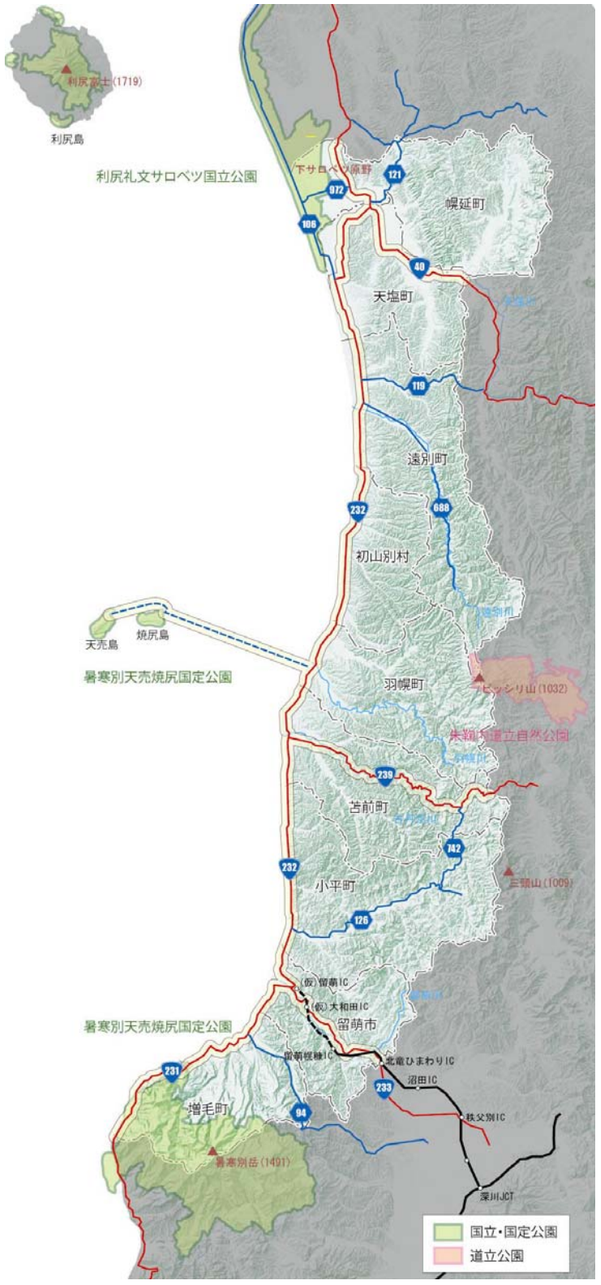
ルート内には、「利尻礼文サロベツ国立公園」「暑寒別天売焼尻国定公園」「朱鞠内道立自然公園」があり、美しい自然景観や貴重な動植物と触れ合うことができます。

切り立った断崖が連続する雄冬の海岸

天売島から見た焼尻島の風景

下サロベツ原野の風景

小平町望洋台からみた海岸の風景



資源の詳細は、各ルートストーリーに合わせて紹介します。

■縦に長い地形がおりなす多様な気候

留萌地方の気候は、対馬暖流の影響で緯度の割には比較的温暖ですが、北部と南部では平均気温で約２℃程の差があり、南部で７～８° C、北部で５～６° Cとなっています。

降水量は秋から冬にかけて多く、冬期間の最大積雪量は平均１m前後ですが、内陸部では２mに達します。６月から８月にかけては風も弱く海も穏やかな日が続きますが、秋は短く 10 月下旬には初雪が降り、冬に向けて北西の季節風が強くなり、海上海岸で風速 20m／s 以上となり、５mを超える波浪が発生する日も珍しくありません。なお、風速については留萌で年平均風速 4.9m/s と、全道の気象官署の中で強い値となっています。

■国道231号～「陸の孤島」と言われた雄冬～

開拓使時代の主要幹線道路「北海岸線」の一部であった旧札幌留萌線は、昭和 28 年に国道２３１号となりました。ところが当時の通行可能区間は、札幌より厚田村、浜益村の一部、増毛より留萌間で、国道に昇格したとはいえ分断されており、他の区間は交通不能区間でした。昭和 46 年に厚田～浜益間に車両通行可能な道路が完成しましたが、なお浜益村と増毛町の境界にある雄冬地区は陸路が断たれており取り残されていました。

このため雄冬地区は、増毛から一日一往復の定期船が唯一の交通手段で、シケでその定期船も閉ざされると、全くの「陸の孤島」と化してしまいました。

国道 231 号の全線開通は、地域住民に多大な利便をもたらしただけでなく、道央と道北の輸送距離を短縮し、また、オロロンラインと愛称される美しい海岸美が多くの観光客を呼び込むことになりました。

■天売島・焼尻島をはじめとする貴重な自然

100 万羽を超える海鳥が飛来する天売島内には、ウミガラス（オロロン鳥）をはじめとしてウミネコ、ウミウ、ウトウなど８種の海鳥繁殖地があり、国の天然記念物に指定されています。また、焼尻島では、イチイ、アカエゾマツなどの自然林の中を散策できます。

「暑寒別岳」では登山により、標高 1,000mぐらいから高山植物を観察することができます。また、「金浦原生花園」や「サロベツ湿原」では、遊歩道を散策し、エゾカンゾウ、ノハナショウブ、タチギボウシなどの珍しい自然の植生に触れ、学ぶことができます。

■日本海オロロンラインウルトライアスロン国際大会　～北・北海道垂直ルート～

増毛町増毛港において水泳２km、増毛町から幌延町で折り返して遠別町まで自転車 200.9km、遠別町からゴール羽幌町までマラソン 41.8km で競技が行なわれていました。総距離 244.7km は国内最長の大会。

その特徴は 8 月下旬の開催でありながら、さわやかな気候と夏のクリアな日本海のスポーツ日和のロケーション、総体的にフラットでありながら要所要所に起伏と変化に富み、何よりも本格的なロングコースであることがアスリートには希少価値だといわれます。

しかしながら本大会は、参加選手が少なくなってきたことや、3,000 人を必要とする運営ボランティアの確保が難しくなってきたことから、平成 18 年の第 20 回大会を最期にその幕を閉じました。

2. 活動テーマ

■活動テーマ

『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』

このルートが観てもらいたいもの。それは、厳しく、そして美しい自然の中で営みを続けてきた、北のこの地に生きる私たちの「暮らしぶり」そのものです。

過去から現在にいたる、自然と人々との関わりの中から生まれた、歴史や文化、海岸や田園の風景、食材や料理、祭事やイベント、自然を大切にする生き方などは、全てこの地の「暮らしぶりの映し」です。

私たちは日々の暮らしの中であたりまえに思っていたこれらの「映し」に、もう一度光を当て、それぞれの価値を高めていくことに取り組みます。そして、この地を訪れる人たちには、これらの「映し」たちが、新しい出会いや発見、郷愁、そして感性への刺激を与えるものとなるように磨きをかけていきます。

一本の道でつながるこのルートの取り組みは、９つのまちをつなげ、訪れる人々との新しい関わりを生み、そこから新しい暮らしの文化が生まれ、より強い光となって輝くことでしょう。

ルートを走り、出会うもの。それは、この地に暮らす私たちが大切にしている幾条もの光。そして、光射す海、まち、道に垣間見える、活き活きと暮らす人々の笑顔。萌える天北オロロンルートは暮らしを通じ、道を通じて、9 つのまちから光を発し続けます。

■私たちが大切にするイメージ

潮風と 夕日に映える 暮らしぶり 萌える天北オロロンルート

一日を終えようとする夕映えのひととき。
私たちが一番大切にしているのは、この時間と空間と仲間。

～時間～
いつも訪れる、いつも一つ、いつも放つ、
いつも違う、いつも沈む、いつも想う、
いつも和む、いつも幸せ、いつまでも続く…。

～空間～
原野から、風車から、海岸から、
田畑から、森林から、まちから、
車窓から、温泉から、団欒から…。

～仲間～
ともに浴びる、ともに感じる、ともに眺める、
ともに出会う、ともに磨く、ともに競う、
ともに讃える、ともに離れていても、ともに暮らす…。

■テーマ立案の背景と課題

北海道の日本海側北西部に位置する私たちの地域は、歴史的には、ニシン漁、炭砿、公共事業等に支えられ、いわば「他力」で繁栄してきた地域です。しかし、現在においてはこれら「他力」の衰退に加え、少子高齢化、人口減少などもあり、「自力」を維持することも困難な時代を迎えました。しかし、私たちの地域には豊かな自然環境や食材、歴史資源、そしてなによりこの土地を愛し、暮らしつづける「人」がいます。今こそ、地域全体が連携する九人十脚のまちづくり、地域づくりを進め、持ちうる資源を見直し、楽しい暮らし方を実践しながら、人々が夢と活力を持って進んでいくことが求められています。

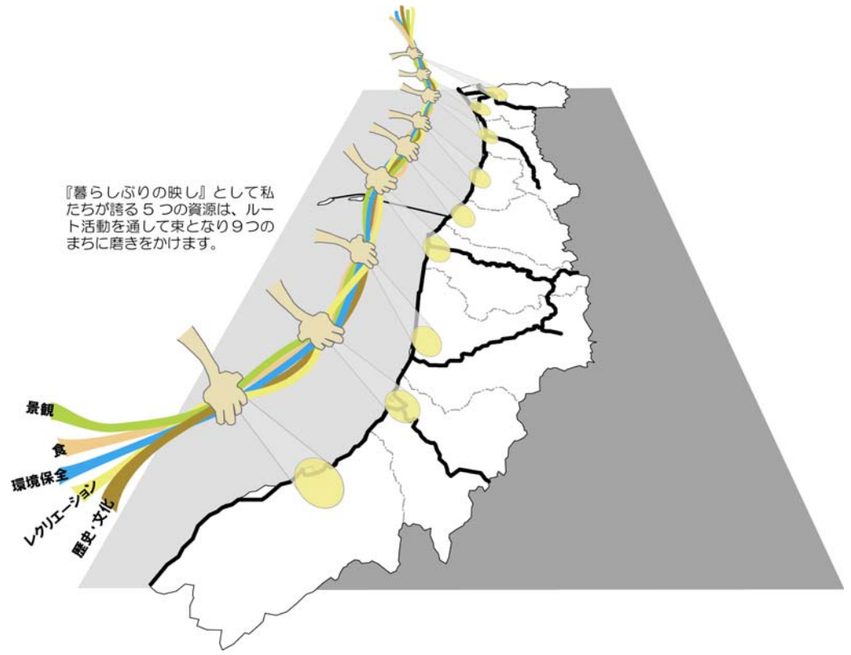
私たちの地域は、いわゆる「観光地」ではありません。しかし北海道の中で、日本の中で他には見られない独自の価値や魅力を持っていると自負しています。その価値や魅力は、今はまだあまり知られていないかもしれません。だからこそ、今、その価値を、魅力を高め、それらを発信するとともに、誇りを持って我々の子供たちに伝え、未来へと繋ぐことが、この地域にとって希求の課題であると捉えています。

■候補ルート申請から指定ルートへ

平成 18 年3月、候補ルートとして活動を始めた私たちは、『手をつないだら、ここが一番！見えてきた』というテーマのもとに、内部体制づくりを進めてきました。このテーマは、私たちの地域、９市町村が手をつなぎ、連携することによって、それぞれの資源が有効に活用され、地域の新しい魅力が生まれる姿をイメージしたものです。

２年間の候補ルート期間を経て、地域の基礎固めの活動を展開するなかで、私たちは多くの議論を重ねてきました。そのなかであらためて気づいた大切な資源は、私たちの「暮らし」そのものでした。

美しい自然、地域に根付く産業、そしてこれまでに築かれた社会インフラのもとに、決して派手ではないけれど、そこには楽しく豊かな暮らしがある。この暮らしにスポットをあて、新たな地域文化を育むこと。そして「暮らしぶりの映し」としての「景観」「食」「環境保全」「レクリエーション」「歴史・文化」を、他に誇りうる私たちの大事な資源（＝光）であることを地域全体が共有し、発信していくことが、指定ルートとしての私たちの活動テーマです。



3. ルートストーリー

萌える天北オロロンルートのテーマに沿った活動を具体的に展開するために、私たちの『暮らしぶり』をよりよく映し出すことができる「景観」「食」「環境保全」「レクリエーション」「歴史･文化」の 5 つの要素を切り口としたルートストーリーを設定しました。

ルートストーリーは、私たちが日頃から大切にしている資源を上手に生かして、その良さを多くの人々に伝えるとともに、今後展開する様々なプロジェクト等によって一層磨きをかけるべく将来的な『暮らしぶり』でもあります。

（1） ストーリー1　景観

海と大地、自然と人との挟間で生み出された郷土の風景。日本海を染める夕日、荒々しい波濤、幻想的なけあらし。春の新緑と秋の紅葉。稲の成長とともにその色を変える田園。道路沿いを飾る花々。景色は時間と季節ごとにうつろい、さまざまな表情を見せてくれます。

【将来展開】萌える天北オロロンルートには、この地の風景を楽しむために多くの人が訪れています。私達は、沿道に花を植え、看板や廃屋への対応等を検討しながら、ルートの風景に愛着と誇りをもって、様々な取り組みを継続的に進めます。

【基本方針】…愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出

- **●風景との出会いの演出**：地域景観の紹介や宣伝、フォトコンテスト、ビューポイントや探勝ルートづくり　など
- **●花とみどりの景観づくり**：沿道の花の植栽、緑化、森づくり　など
- **●愛着と誇りの醸成**：看板や廃屋などへの対応、子供たちへの啓発活動、景観診断　など

夕暮れの穏やかな海原とローソク岩

苫前町沿岸の『けあらし』の風景

国道 231 号の雄冬海岸のダイナミックな風景

風車群に延びる国道 232 号の風景

苫前町ウインドファームの牧草地と風車の風景

直線が果てしなく続く下サロベツ原野

真冬の海岸に打ち寄せる『波の華』

朝焼けの幌延町知駒岳の風景

海岸を覆いつくす氷柱群

景観にかかわる資源

■海岸、内陸の多様な景観

萌える天北オロロンルートの沿道景観は、大きく「海岸部」の景観と「内陸部」の景観に分けられます。

●海岸の景観

「日本海オロロンルート」として知られる海岸部は、夕日の名所として広く内外に知られているほか、海沿いに望む天売、焼尻島や、利尻岳への眺望など優れた海辺の景観を呈しています。また、増毛町にみられる暑寒別岳の山裾が海岸に落ち込む急峻な断崖、留萌市から苫前町にかけてみられる長く連続する海岸段丘、羽幌町から天塩町にかけてみられる段丘上の丘陵地形など、変化に富んだ海岸景観を楽しむことができます。

●内陸の景観

ルートの内陸側は、天塩山地、増毛山地などの山々が連なり、そこから多くの川が日本海に流れています。特に、幌延町、天塩町に流れる天塩川は、その沿川に広大な平地をつくり、主に牧草地として利用されています。また、留萌川、古丹別川、羽幌川、遠別川などの流域も水田や畑作などに利用されており、のどかな里山の景観を呈しています。さらにその奥には、針広混交林が広がる山間地を控え、特に秋には美しい紅葉を楽しむことができます。

■自然が見せる特徴ある現象（けあらし、波の華、波濤など）

「けあらし」は、寒い晴れた朝に、内陸部の空気が冷やされ、その空気が谷や川を伝って暖かい海面に流れ込むことにより海霧が発生する現象で、海面にもうもうと立ち上がる霧の向こうに船や山並みを望む幻想的な風景を体験することができます。

「波の華」は、海岸に打ち寄せる波が白い泡状になる現象で、海中のプランクトンが増加しその粘液が荒波にもまれることにより現れます。強風の日などは、海岸線に白い泡が飛び交い、冬に花が舞うような不思議な感覚を楽しむことができます。

これらの現象は、この地域の冷涼な気候と波の強さに起因します。留萌沿岸の激しい波浪は、マドラス（インド）、ウィック（スコットランド）と並んで世界三大波濤のひとつといわれています。

■隠れたスポット　～知駒岳～

知駒岳は標高 532m、中頓別町と幌延町の境界に位置します。幌延町市街地から道道７５号（道道中頓別豊富線）を進むルートでは日本離れした雄大な自然を堪能でき、紅葉の季節は必見。峠の展望台からは３６０度の大パノラマの中、利尻富士や遠くサハリンを一望できるほか、白鳥の渡りのコースであることから飛行する姿を狙うカメラマンも多く訪れる。

バラエティに富んだ海岸沿いの景観

ルートは、大きく海岸部と内陸部に分かれ、さらに周辺地形や土地利用によって様々な景観を楽しむことができます。

地図上では長く単調な印象を与えがちですが、道路を走りながらの大きな場面展開がこのルートの醍醐味の１つです。

●海岸の景観

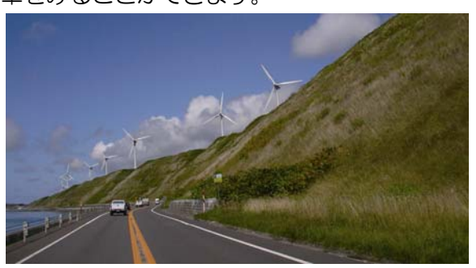
200km にも及ぶルートの海岸は、その大半の区間で海岸段丘が連続しています。

道路が段丘の上を通るのか下を通るのかによって、その景観は大きく異なります。

南部の増毛町では、急峻な山地が道路や集落に迫り、さらに留萌･小平方面では、山肌が植物に覆われた柔らかな表情を見ることができます。

さらに初山別村方面では、道路から海岸へのわき道へ入ると波の侵食により形成された崖地のダイナミックな景観がみられます。

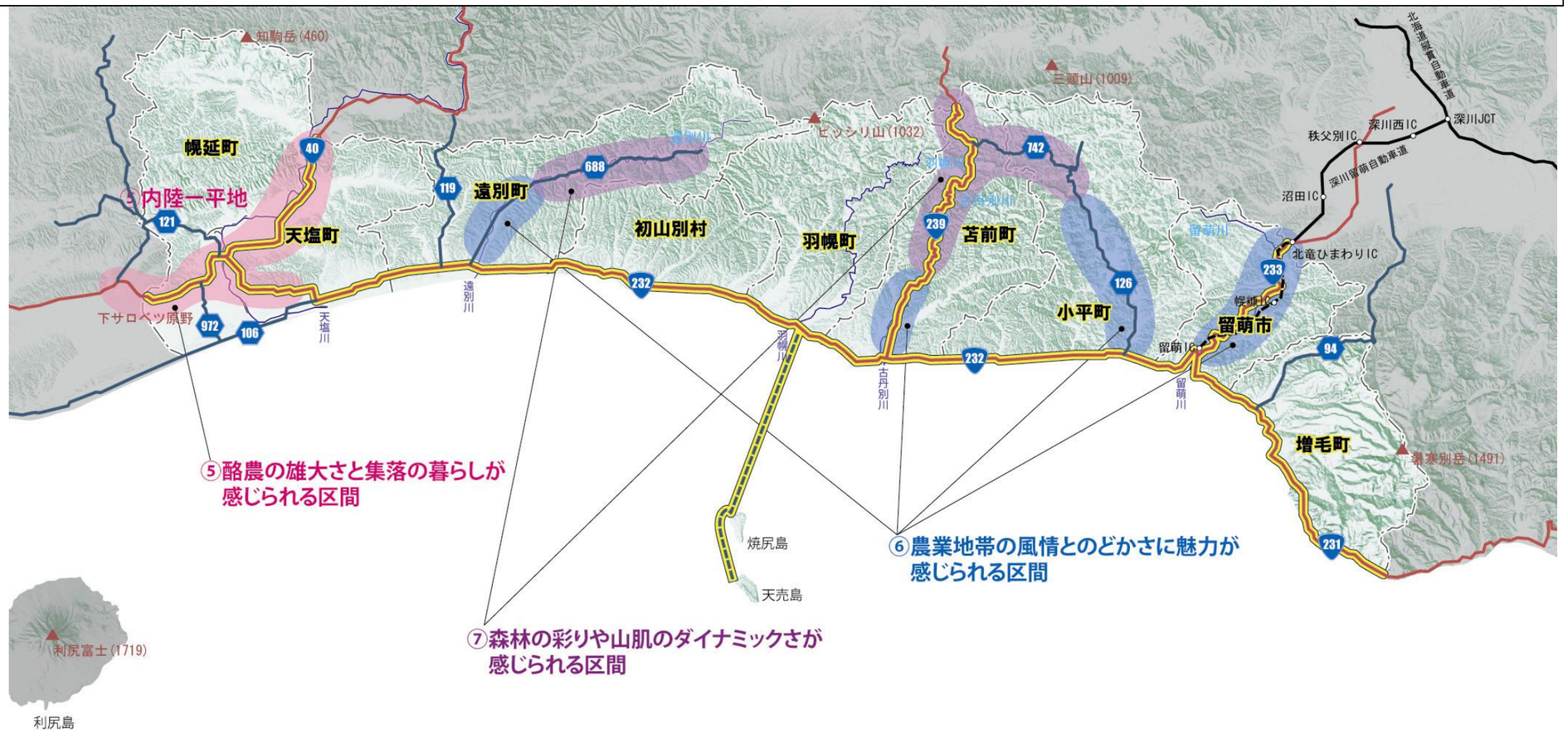
そして北部の幌延町方面では、眼前に平坦な湿原が広がります。

①主に大湿原の低い標高を通る区間	②海岸段丘の上の平地を通る区間	③海岸段丘の下の海沿いを通る区間	④切り立った山裾の海岸沿いを通る区間
日本有数の大湿原サロベツ原野を背景として伸びやかな景観が続きます。	海岸段丘上に、緩やかな丘陵と比較的平坦で幅広い平地が広がり、主に畑地や牧草地として利用されています。	海辺に接する海岸段丘が連続します。段丘の背後に多くの風車をみることができます。	暑寒別岳山麓の急峻な断崖が海辺まで接近しており、多くのトンネルが連続します。
			

農業・酪農の顔もある情緒的な内陸の景観

●内陸の景観

　萌える天北オロロンルートは、海岸のイメージが強いルートですが、内陸の景観も北海道らしい伸びやかな牧草地の景観や山あいに水田や畑が広がった集落など、風情を残す景色を楽しむことができます。



⑤酪農の雄大さと集落の暮らしが感じさせる区間	⑥農業地帯の風情とのどかさに魅力が感じられる区間	⑦森林の彩りや山肌のダイナミックさが感じられる区間
天塩川流域に伸びやかな牧草地帯が広がります。連続する防風林や点在する集落などの風景の変化を楽しむことができます。	河川沿いに水田や畑地が広がり、その背後には丘陵の緑が迫る里山的な景観を楽しむことができます。	海のイメージはなくなり、標高が高くなるにつれて森林が道路まで迫ってきます。緩やかなカーブが連続し爽快なドライブを楽しむことができます。

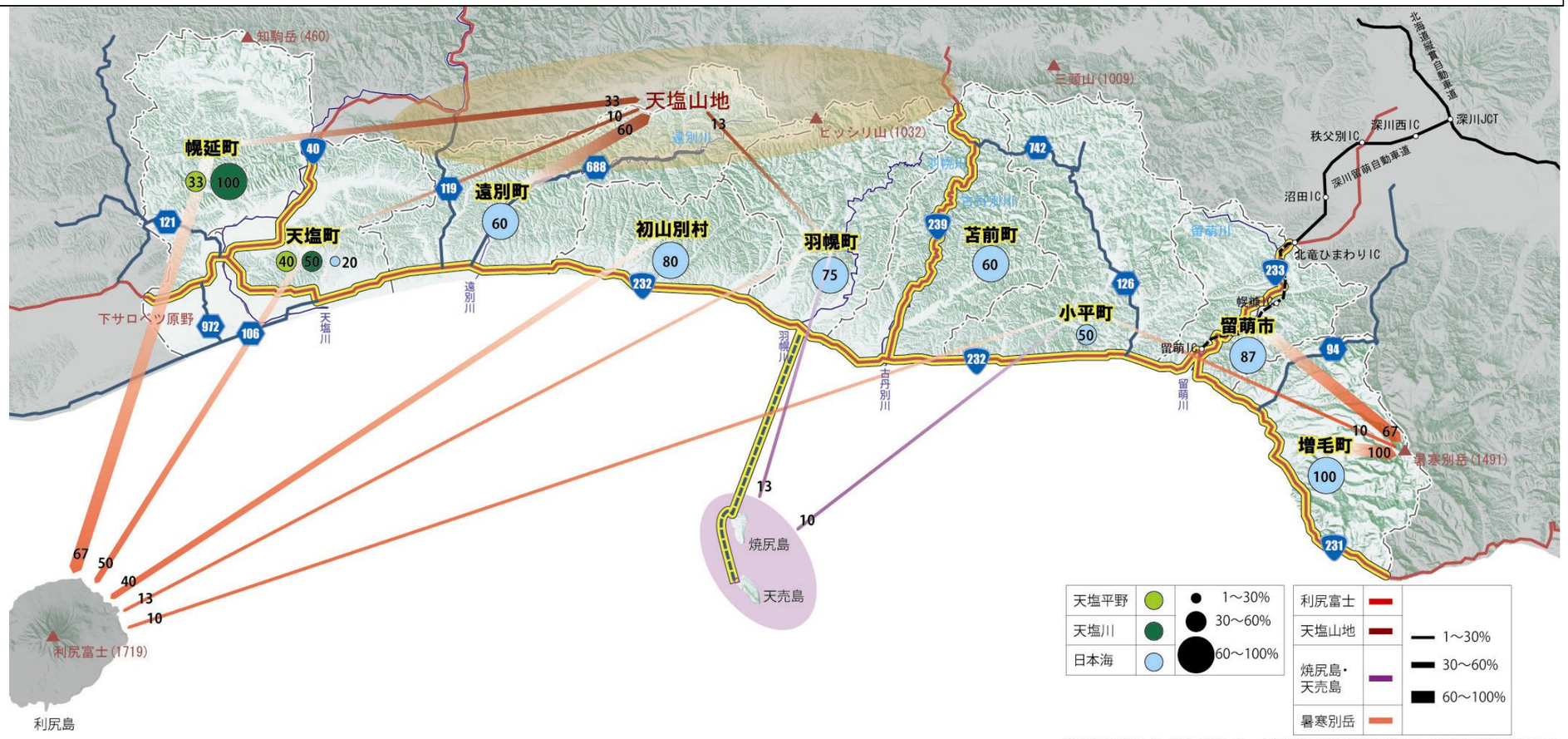
私たちが大切にしている景観とは

利尻富士や天塩山地、天塩川などの山や川、海は、私たちがこの地で生まれたときから親しみをもって眺めている身近な風景です。

フォトコンテストには、日本海の夕日をはじめ、これらの自然風景を被写体とした作品が多く寄せられています。

これらの被写体は、小中学校の校歌にも歌いこまれており、このルートで暮らす私たちが市町村の垣根を越えて、互いに認め合うシンボル的な景観となっています。

ルート内だけではなく「利尻富士」が、近傍の幌延町、天塩町はもとより、初山別村、羽幌町、小平町でも歌われていることも特徴です。



※上記7つの山・川・平野・島は、ルート内の小中学校校歌において、複数の市町村で歌詞に盛り込まれた風景である。
※パーセントは、各市町村ごとの学校校歌数に対し、それぞれの風景が盛り込まれた割合を示す。（例：10校のまちで３校で盛り込まれていた場合、30%となる。）

※写真は平成 18 年度「萌える天北オロロンルートフォトコンテスト」の受賞作品・応募作品

日本海	天塩川	天塩平野	利尻富士	天塩山地	天売島・焼尻島	暑寒別岳

（2）ストーリー2　食

この地域は日本の米の北限。厳しい風土の中だからこそ甘みのあるおいしいお米が獲れます。また、エビ、タコ、ヒラメ、などの豊富な海産物、イチゴ、ブドウ、リンゴなどの果物、野菜、肉、酒・・・この地域には食材なら何でもそろっています。しかも安全で安心、食べておいしい。

【将来展開】 萌える天北オロロンルートでは、まず自らが自然の恩恵である地元の食材を味わい、楽しむために、生産者と消費者が一体となった地域ぐるみの活動を展開します。また、さらにより多くの人たちに味わってもらうために、その魅力をＰＲし、新しいメニュー作りにも取り組みます。このような活動を通じて地域ブランドを構築し、この地域の「食」が全国、全世界へと発信します。

【基本方針】…自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信

●**地場産品の魅力づけ**：地産地消・産消協働の取り組み、地域食材の紹介・ＰＲ、販売　など

●**新メニューの企画**：新しいメニューの開発と販売、レシピづくり、農漁業者・加工業者・商業者の連携　など

●**地域ブランドの構築**：食材･加工品･料理･ライフスタイルについての世界に誇れる地域ブランドの構築と宣伝　など

稲作の北限、遠別の水田の風景

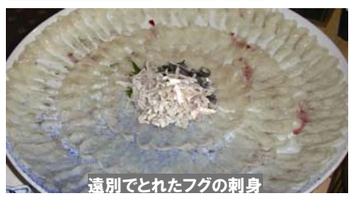
小平産の黒毛和牛

増毛町『国稀』の歴史を学ぶ

新鮮で豪快な料理が自慢

増毛町の露店で見つけたタコ串

遠別でとれたヒラメの活き造り


遠別でとれたフグの刺身

新鮮な食材をその場で網焼きにする醍醐味

9つのまちの厳選食材を取り揃えた『九宝御膳』

温暖な増毛で大切に育てられるサクランボ

伸びやかな大地に広がる畑地の風景

遠別近海でのヒラメ漁の様子

食にかかわる資源

「萌える天北オロロンルート」は、豊かな海産物、農産物に恵まれた食材の宝庫です。日ごろ家庭で使う食材をほとんど地元でまかなうことができるほど豊富な種類の食材があり、食品としての安全性にも定評があります。最近では新たな地域ブランドの創出や、地場産品を使った料理の開発と販売など、「食」にこだわったさまざまな取り組みが進められています。

■海産物、農作物など多様な食材

萌える天北オロロンルートは、海岸部と山間部を走ることから、あらゆる食材を味わうことができます。増毛町暑寒沢地区の「果樹園」は、日本最北の果樹地帯であり、さくらんぼ、なし、りんごなどのフルーツ狩りが楽しめます。水産物では、ほたて、しじみ、ふぐなどがあります。農産物では、管内南部でとれる「うるち米」、焼尻島の「サフォーク牛」、小平町の「和牛」などがあります。また、素材を活かした「数の子（留萌市）」、「日本酒（増毛町）」、「乳製品」などの加工品も有名です。海山両方をもつ増毛町では、地元製品やアイデアを統一ブランドとする「千石場所」を商標登録しており、地産地消、地域ブランドの推進に向けた取り組みが図られています。

■食品としての安全性

この地域は、冷涼な気候により農作物への農薬散布量が少なく、極めてクリーンな農産物が多いことで知られています。サクランボをはじめとする果樹栽培で有名な増毛町では、「減農薬栽培」を計画的に進めています。留萌市では、ピーマン生産における「クリーン技術」の確立により、JA 南るもいで取り扱うピーマンの全出荷分が持続性の高い農業生産方式の導入を行う者だけに与えられる『エコファーマー』の認定を受けています。今後は栽培方法等を簡明に表示することにより、消費者・実需者に道産農産物の優れた特質を積極的にアピールする『Yes! Clean』表示登録の拡大や、それに伴う生産者の育成を展開しています。

■連携による新たな「食」の取り組み

留萌管内では、食に関するイメージ向上のために、観光資源と有機的に結びつけて道内外に広く PR する取り組みを推進しています。「るもい食ロード」は、食と従来からの観光資源である体験・温泉・歴史・文化とを結びつけた観光ルートを設定し、食の魅力を活かした観光地づくりに取り組んでいます。「お魚普及協議会」では、管内 4 漁協、漁連が一体となって水産物を管外に PR し、販路拡大を目指しています。留萌管内には夏季海水浴シーズンをピークに、近隣の内陸都市から多数の入り込みがあるため、内陸圏消費者に対して留萌の水産物をひろめることで購買意欲の促進向上効果が期待できます。

■新たなメニュー・ブランドづくりへの取り組み

豊富な食材がある留萌管内では、各市町村の特産品を持ち寄ることで、新たな地域ブランドの確立を目指しています。「オロロン鍋」は、甘エビ・ホタテ・たら・しめじと、管内の食材が入ったユニークな料理です。留萌管内中部 3 町村である苫前町・羽幌町・初山別村では、合同で「日本海えびタコ街道協議会」を構成し、新しいご当地グルメを売り出しています。中部圏に共通する日本海の甘エビとミズダコを食材とした「日本海えびタコ餃子」を販売するなど、多彩な活動が展開されています。

海産物も農畜産物も多様で安全な食材の宝庫

ルートの沿岸では、エビやタコ、サケ、シジミなど新鮮な魚介類が数多く水揚げています。とりわけヒラメやフグは、高級食材として本州各地に出荷されていることは、あまり知られておりません。

農産物も豊富であり、冷涼な気候であることで、農薬の使用が少ないことが、安全な食材と評価されている理由です。

加工品では、全国一のシェアを占める塩カズノコをはじめ、日本では珍しいトナカイ肉などの特徴ある農産物加工品を製造しています。また、国稀（日本酒）やオビラージュ（ワイン）などの種類も製造しており、どれも地元のアイデアと工夫を凝らした商品です。

幌延町	天塩町	遠別町	初山別村	羽幌町	苫前町	小平町	留萌市	増毛町
●トナカイ肉加工品 トナカイは、町内の「トナカイ観光牧場で飼育されています。	●天塩しじみ 天塩川産の「青シジミ」は高級品として有名です。シジミ祭りには多くの人々が訪れます。	●ヒラメ 高級食材であるヒラメは、本州にも出荷されています。	●ハスカップ加工品 地元産のはすカップを用いた、ジャムやシロップ、ワインなどが生産されています。	●サフォークめんよう 羽幌町の焼尻島の名産、サフォークめんようは、年間100頭しか出荷されません。	●味付きジンギスカン 独特の味付けのジンギスカンは、町外にも多くのファンがいます。	●黒毛和牛（小平牛） 宮崎産の黒毛和牛を導入し、道の駅などで食べることができます。	●カズノコ 留萌はカズノコ生産日本一。そのシェアは、全国の約６割を占めています。	●甘エビ 増毛町でもっとも賑わうえびまつりには、道央圏などから多くの人が訪れます。

(3) ストーリー3　環境保全

地球環境の問題は、そのまま地域の問題でもあります。海岸に立ち並ぶ風車は、この地域のクリーンエネルギーの象徴です。また、ゴミ分別の細分化など、身近な環境問題への対応にもすでに熱心に取り組んでいます。

【将来展開】萌える天北オロロンルートでは、CO_2削減に向けた新エネルギーの導入や、身近なゴミの問題、そしてルートの生態系を守り育てる活動などを通じて自然との共生を実践し、環境先進地域として、他に先駆けた取り組みを進めます。

基本方針：地球に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進

- **●クリーンエネルギーのイメージづくり**：バイオディーゼル、バイオマスへの取り組み　など
- **●ゴミ対策の取り組み**：清掃活動、ゴミ（汚染）問題の啓発、ゴミ分別の徹底　など
- **●身近な生態系の保全･復元**：自生種の保全と復元、生物の生息空間の確保と創出　など

板堺と風車が暮らしぶりを感じさせる風景

水と緑、そして風車の清涼感のある風景

クリーンアップ日本海の取り組み風景

バイオ燃料化を目指したヒマワリの試験栽培

道路法面に復元したエゾカンゾウ

エゾカンゾウの苗づくりの様子

身近なみどりの復元を目指した植樹活動

子ども達によるエゾカンゾウの苗づくり

シーニックの森づくりの植樹風景

高校生による道路植樹活動の様子

子どもたちによるエゾカンゾウの植栽の様子

地元ボランティアによる道路清掃活動の様子

環境保全にかかわる資源

■風車群が象徴するクリーンエネルギー

北海道は、CO_2を発生しない「風力エネルギー」利用の先進地であり、風車の導入基数は 260 台と国内で最も多い導入基数を誇ります。なかでも、留萌管内は冬期間に北西の季節風が風速 20m/s と強く、日本有数の風力発電施設設置の適地であるとされています。管内には 13 の風力発電施設があり、平成 19 年 1 月末現在稼動している風車台数は、95 台となっています。これは、総出力にして全道の 37%、全国でも 8%の割合を占め、発電所数・風車基数ともに道内で一番多く稼動しています。

■ゴミ対策への取り組み

「ゴミの分別収集」が先駆けて行われています。「バイオマス」と呼ばれる事業系生ゴミ等食品系廃棄物のリサイクルにも、率先して取り組んでいます。道内で生ゴミを資源化しているのは、平成 18 年 8 月現在で 73 市町村あり、留萌支庁は全ての市町村が実施している唯一の管内になります。

■豊かな自然環境の存在とその対応

萌える天北オロロンルート内には 3 つの自然公園があり、天売島が国の天然記念物に指定されているなど、貴重な動植物が生息する地域であります。利尻礼文サロベツ国立公園では、過去に行われた開発や人間活動などによって、損なわれた自然環境を取り戻す「グリーンワーカー事業」が進められています。この事業は、関係行政機関、関係地方公共団体、地域住民、NPO、専門家等の多様な主体とともに、外来種対策などの自然再生に取り組むものです。

■水産資源の保全

藻場造成事業は、漁業者の生産物の中からリサイクルできるものを形に変えながら海に戻し、限りある資源を有効利用して再生産の輪を広げて藻場を再生する事業です。環境へ還元する方法がマニュアル化されておらず各海域環境にあった手段が要求され、より成果が上がる藻場造成事業を試験･研究しています。

■天塩川河口流域を考えるプロジェクト

豊富、幌延、遠別、初山別の商工会青年部が連携した地域振興パイロット事業として、流木などを炭にして天塩川に沈め、清流にする活動に取り組んでいます。沿岸への漂着物は産業廃棄物として処分するが、流木や廃材を炭にして川に戻すことで、水の浄化に役立てようとするもの。環境の実態把握から炭作りの視察研修などを重ね、平成 19 年度は、クリーン作戦による流木の収集と炭作りを実施しています。

寒風を上手に活かし、植物とも上手に付き合う私たち

ルートには、風力発電の風車が 95 台設置されており、ドライブシーンのアクセントとなっています。また、ヒマワリや菜の花の生産活動は、風力発電と同様にクリーンエネルギーを作りだす取り組みとして始められました。そしてエゾカンゾウは、失われかけた自生種を保全する運動として広まりつつあります。

設置場所		風車規模(kw)	台数	総出力(kw)
留萌市礼受	①	400	2	800
	②	400	4	1,600
	③	740	4	2,960
小平町鬼鹿字田代	④	500	1	500
小平町鬼鹿字富岡	⑤	740	4	2,960
苫前町豊浦	⑥	600	1	600
	⑦	600	1	600
	⑧	1,000	1	1,000
苫前町上平	⑨	1,000	20	20,000
	⑩	1,500	5	7,500
	⑪	1,650	14	23,100
羽幌町汐見	⑫	400	2	800
遠別町北里	⑬	990	3	2,970
天塩町浜更岸	⑭	800	3	2,400
幌延町幌延	⑮	230	1	230
	⑯	250	1	250
幌延町浜里	⑰	750	28	21,000
留萌支庁管内計			95	89,270
全　道　計			260	241,485
全　国　計			1,087	1,127,306

注：20kw未満については未集計（留萌支庁地域政策課調べ）

幌延町浜里	苫前町上平	苫前町豊浦	小平町鬼鹿字富岡	留萌市（礼受牧場）

(4) ストーリー4 レクリエーション

シーカヤックやウィンドサーフィンは、大海原に面するこのルートならではのアクティビティ。そして南北 150km にもおよぶ海岸沿いの道路では、自転車やオートバイ、自動車と人それぞれに爽快な気分を満喫でき、15～20km ごとに迎えてくれる街には『暮らしぶり』を感じさせる魅力がたくさん。

【将来展開】 萌える天北オロロンルートでは、私たちが楽しんでいるアウトドアスポーツやカルチャーメニューを一つ一つ丁寧に用意するとともに、迎える側としてのホスピタリティを充実し、地域と訪れる人々との間に笑顔と暖かい交流を世界へと広げます。

基本方針：暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり

- **●ロングドライブのサポート**：道の駅やドライブイン、果樹園など立ち寄りポイントの個性化　など
- **●身近なアウトドアの紹介**：海、山、川の隠された遊び場の発掘　など
- **●各種カルチャー活動による交流**：料理教室や工芸などの創作活動、自然体験学習　など

『カニ釣り』の子ども達で賑わう黄金岬

家族連れで賑わう海水浴場の様子

苫前ホワイトビーチでサーフィンを楽しむ若者

地元食材を使った料理教室の様子

幌延での雪体験イベントの様子

留萌川まつりでのボート体験の様子

小平蘂番屋での歴史解説の様子

初山別道の駅オープンイベントの様子

風車のふもとでのツアーガイドの様子

天塩川におけるカヌーの風景

天塩町でのプレジャーボート大会の風景

苫前町風車まつりの風景

レクリエーションにかかわる資源

「萌える天北オロロンルート」は、各市町村毎に様々な泉質の温泉があるほか、道北随一の海水浴、キャンプスポットとしても多くの行楽客が訪れます。また、平成 19 年 6 月にルート内では 6 つ目の道の駅となる「道の駅☆ロマン街道しょさんべつ」がオープンしました。他にも、観光牧場、果樹園、天文台など、家族で楽しめる施設が数多く分布しています。

■個性ある温泉、海水浴場

留萌管内は全市町村に温泉施設があり、泉質や入浴場から眺める景色の違いにより様々な楽しみ方を堪能できます。各まちの温泉をつなぐ、「オロロンライン湯のまちおんせんリレー」のように、温泉をネットワークする取り組みも進められています。また、ルート内の 10 箇所の海水浴場は、道央圏、道北圏を取り込んだ夏季観光の中心地になっており、大人から子どもまで多様な年齢層が楽しむことができます。

■ドライブ観光の拠点、6 つの道の駅

「おびら鰊番屋」は、重要文化財である旧花田家番屋に隣接し、「風 W とままえ」、「ほっと・はぼろ」、「☆ロマン街道しょさんべつ」には温泉が複合するなど、バラエティに富んだドライブ拠点となっています。また、ルートのつながりを意識し管内道の駅が連携した「道の駅弁」の企画･販売にも取り組んでいます。

■マリンスポーツの隠されたスポット

ウエットスーツの普及とともに、ルート内の海岸では季節ごとの波を楽しむサーファーが見受けられ、有名人も訪れるなど、静かなブームとなりつつあります。ここ数年はサーファーの人口も増え休日などは多少ポイントが混雑することもありますが、本州方面から比べると恵まれた環境にあります。また、シーカヤックで沿岸を巡ったり、カヌーでゆったりと天塩川を下るなど、一般に知られていない地元だけの楽しみが多く点在しています。

■アスリートの憧れの地

ツール・ド・北海道国際大会は、日本最大のステージレースで、北海道内を「道北」「道南」「道東」の 3 地区に分け、年ごとにコースが設定されています。留萌管内がコースに設定されたのは、93 年（第 7 回大会）、97 年（第 11 回大会）、03 年（第 17 回大会）、06 年（第 20 回大会）です。また、第 20 回大会をもって終焉を迎えた日本海オロロンライントライアスロン国際大会は、増毛町から幌延町までの風光明媚な海岸線を北上するアクティブな最北コースが、全国のアスリートの憧れとなっています。

■るもい食の時刻表

地域活性化推進協議会では、地元ならではの食と観光と人をテーマとした情報誌を毎月 1 回発行しています。新しい食のメニューをはじめ、古くから引継がれている職人の技からアート作品の紹介に至るまで、タイムリーな話題を満載しています。今後は、地元の教養として収蔵するとともに、私たちの『暮らしぶり』を広く多くの方々に知ってもらい、観光展開を図るためのベースとすることが可能となっています。

ロングドライブの立ち寄りポイントは季節に応じて

国道 232 号沿いの連続する小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町には、それぞれに個性的な道の駅がありドライブの合間の休憩やルート情報を得るために、多くの観光客が集っています。

幌延ビジターセンターや留萌市の礼受牧場、雄冬岬展望台は、周囲の眺望を見渡せる休憩ポイントとして人気があります。

各まちには、様々な泉質の温泉があり、湯治場としても利用されている施設もあります。

さらに、ルート内には 10 箇所の海水浴場があり、札幌圏、旭川圏を中心に、年間 20 万人ほどの海水浴客が訪れるほか、海浜公園や森林公園や河川公園など、四季を通じて自然と親しむことのできる様々なアウトドアフィールドがあります。

道の駅てしお	道の駅ふじみ	道の駅☆ロマン街道しょさんべつ	道の駅ほっと・はぼろ	道の駅風Wとままえ	道の駅おびら鰊番屋

（5）ストーリー5　歴史・文化

松前藩の時代から、ニシン漁はこの地域に様々な物語を残してくれました。今も残る番屋や漁具はそんな時代を今に伝えています。明治、大正、昭和を経て今にいたる様々な歴史的建築、まちなみ、生活様式は、この地域が次代に伝えるべき大切な財産です。

【将来展開】 萌える天北オロロンルートでは、先人から受け継いだこれらの貴重な資源を守り育て、そして、過去から現在にいたる悠久の物語を語り継ぎます。また、この地ならではの気象や地形、また人々の気質や共有される価値観に根ざした生活文化を将来に伝えます。

基本方針：先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ

- **●歴史資源の保全と活用**：歴史的建築物・文化財の保全、公共的・商業的利活用　など
- **●次世代への歴史伝承**：地域の歴史・文化の研究、記録、語り部の育成　など
- **●独自の生活文化の発見**：地域ならではのライフスタイルの発掘と普及、新たな生活文化を生み出す試み　など

初山別の金毘羅神社の夕暮れ

鉄道跡と並行する砂利道の風景

小平町『旧花田番屋』

木造で今なお使われている『増毛小学校』

留萌市『やん衆あんどん祭り』の様子

映画ロケの看板を残した増毛観光案内所

国の重要文化財『丸一本間家』

初山別に伝え残される『有明獅子舞』

板塀は、ここでの暮らしを伝える身近な要素

ひっそりとたたずむ羽幌炭坑跡

貴重な絵画が残されている増毛の厳島神社

『くらし』をテーマにした天塩川歴史資料館

歴史・文化にかかわる資源

留萌管内は、松前藩の時代からニシン漁で栄え、番屋や漁具などの往時を物語る歴史的資源が数多く残されています。平成 13 年には、小平の旧花田家番屋などを含む「留萌のニシン街道」が北海道遺産に選定されました。これ以外にも「増毛の歴史的建築物群」（北海道遺産）や、昭和 26 年に役場庁舎として建てられた「天塩川歴史資料館（天塩町）」など、いにしえの街並みや建築物をみることができます。また、各所に点在する縄文、擦文時代の遺跡群や社寺仏閣、郷土資料館など、地域の歴史・文化に触れることができる資源が豊富に分布しています。

■番屋などのニシン漁の歴史

明治から大正時代にかけて、一起こし千両、万両といわれたニシン漁の全盛時代が訪れました。日本海岸沿岸の各地に建築されたニシン番屋には、各地から漁場の労働者である「ヤン衆」が集まり、明治 30 年には北海道の水産業における総漁獲量の 50%をニシンが占めるまでに至っていました。小平町の「旧花田家番屋」は、往事は 200 人を超えるヤン衆がひしめき合った最大クラスの規模をもつ民家です。豪壮な建物からは、当時のニシン漁の繁栄ぶりが伝わってきます。

■北海道遺産（増毛の歴史的建物群、留萌のニシン街道、天塩川）

この地域では、3つの北海道遺産があり、これらを活用した地域づくりが各地で行われています。その一つとして、「北海道遺産を巡る観光ツアー」が実施され、多くの人たちが留萌管内を訪れています。旧花田家番屋(小平町)や増毛町では、鰊番屋祭りや増毛小学校を活用したコンサートが開催され、地域自らが発信する取り組みが行われています。天塩町では、天塩川歴史資料館にて明治・大正時代に生活物資を運ぶ要であった長門船が復元されるなど、天塩川の歴史的価値を伝えています。

■炭鉱の歴史と往時の名残

1930 年代から 1970 年代まで、羽幌町、小平町、幌延町、留萌市では石炭が産出されていた。管内には、炭鉱鉄道が縦横無尽に張り巡らされ、それぞれの街では炭鉱町を形成していました。

とりわけ羽幌炭鉱は、留萌炭田の中心的炭鉱として良質炭を産出することで知られ、羽幌炭鉱鉄道の駅周辺は、居酒屋、パチンコ店、病院、映画館などがあり大変な賑わいを見せていました。しかし、この地域の基幹産業であった炭鉱も 1970 年代には全て閉山しました。現在は、炭鉱跡や鉄道跡に往時の名残を見ることができ、ツアーなども行われています。

■生活文化

北海道の伝統的な漁業としてニシン漁が歴史や文化に及ぼした影響は大きく、漁村の生活文化はニシン漁労を中心に成立したものであるといえます。北海道の漁村の代表的な料理として、三平汁、まくり汁、魚の飯鮨、ニシンの切り込みなどがあり、江戸時代の松前地で成立したものが漁村全体に受け継がれたものです。

古代から近代まで興味深い資料や祭事が豊富

ルート内の歴史資源は、北浜遺跡（天塩町）、チライベツ遺跡（羽幌町）などの古代の遺跡群から、三毛別羆事件復元跡地や築別炭鉱跡など比較的近年のものまで、様々な時代を巡ることができます。

旧花田家番屋（小平町）、旧佐賀番屋（留萌市）、丸一本間家（増毛町）などの歴史的建築物は一般公開されており、当時の生活様式や繁栄の軌跡をたどることができます。

増毛厳島神社、金比羅神社（初山別村）などの古くからの社寺建築も残されており、地元では伝統的な祭事として引継いでいます。

天塩川歴史資料館では、天塩川の長門船の歴史を伝える資料が残されています。小平町郷土資料館など、ルート内には、ニシン漁の歴史を伝える道具や資料が数多く残されています。

天塩川歴史資料館（天塩町）	金毘羅神社（初山別村）	旧花田家番屋（小平町）	旧佐賀家番屋（留萌市）	増毛小学校（増毛町）	丸一本間家（増毛町）
昭和 26 年に天塩町の役場庁舎として建てられました。復元された長門船などが展示されています。	道内では珍しい海中鳥居の神社です。海越しに望む利尻富士や夕日の景観が美しい場所です。	明治 37 年頃に建造された現存する道内最大規模の番屋で、昭和 46 年に国の重要文化財に指定されています。	「旧佐賀家漁場」として国の史跡に指定されており、また、同漁場のニシン漁撈用具 3,745 点は平成７年に国の重要有形民俗文化財に指定されています。	昭和初期に建造されたもので、道内最後の貴重な戦前期都市型木造校舎として、今も現役で使われています。	明治初期から営業を続けてきた豪商で、平成 15 年に国の重要文化財に指定されています。

①代表者　②会員数　③発足日　④団体概要及び活動状況
※団体名横の【　】は主な活動分類

4. ルートの運営体制
(1)活動団体

■増毛町観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①林　真二　②120 名（団体、個人含む）　③昭和 25 年 5 月 30 日
④駅前観光案内所運営、マップ作成、ホームページ運営、観光ガイド、海水浴場運営、登山情報提供、イベント開催などを行っている。駅前観光案内所の開設（4 月下旬から 11 月上旬までの土日祝日、7 月から 9 月は平日も営業）／観光客向けイベントの開催（増毛町えびまつりの開催、観光港まつりの開催、増毛町秋味まつりの開催）／ホームページ（増毛町観光情報局）の発信とマップ（早わかりマップ）の配布／来町者向けの観光ガイド

■増毛漁業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①西野憲一　②188 名　③昭和 24 年 8 月
④平成 18 年度は市場取扱高 28 億 33 百万円を売上、組合全体の売上は 34 億 30 百万円となった。この結果は平成 3 年以来最高の水揚げとなったが、一方で原油価格の上昇により生産資材等が値上がりして浜の経済は厳しいといえる。そんな中、平成 11 年より指導事業として、漁業者を筆頭に関係各機関の応援を頂き試験研究を重ねている「藻場造成事業」が、徐々に成果を出し始めている。事業の内容は漁業者の生産物の中からリサイクルできるものを形に変えながら海に戻し限りある資源を有効利用して再生産の輪を広げて藻場を再生する事業であるが、環境へ還元する方法がマニュアル化されておらず各海域環境にあった手段が要求され、より成果が上がる藻場造成事業を試験･研究している。

■増毛町商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①澤井亨司　②186 名　③昭和 36 年 1 月 30 日
④商工会は、地域における商工業の総合的改善発達を図るとともに社会一般の福祉の増進に資することを目的として、商工会法に基づき設立された「特別認可法人」。中小企業者の経営相談・経理相談・税務相談・金融相談・労務相談・創業支援・検定等の事業を行っている。／各種イベントの開催及び共催等（えび祭り（共催）、港祭り花火大会（共催）、サマーフェスティバル（主催）、盆踊り大会（主催）、秋味祭り（主催）、ふれあいコンサート（共催）、ふれあい広場（共催）／その他町内美化運動・植栽事業等実施

■ゆうゆうマーシー【景観　食　環境　レク　歴史】
①豊川一巳　②181 名　③平成 13 年 8 月 21 日
④目的：地域住民の主体的なふれあい・ささえあいのまちづくり活動の推進。地域通貨を活用した気軽な助け合いを町内に広げ、子どもから高齢者まで様々な年代が参加し、社会交流、異世代交流、生きがいや役割づくりなど、イキイキ暮らせる増毛の地域づくりを目指している。PR：地域住民と行政の協働活動によるまちづくりの推進も図っている（高齢者の住みやすいまちづくり構想などを通して)。「してほしいこと」「できること」のボランティア／「できること」を生かした講習会／まちづくり活動（街中ベンチの設置、花いっぱい運動メモリアルパーク花壇整備～留萌開建ボランティアサポート）／有償ボランティア事業／環境保護活動（海岸ゴミ拾い、ウエスにする古布回収、不用品交換）／ゆうゆうマーシーのつどい（交流の場）／ゆうゆうマーシー市（会員の作った野菜や手芸品等を販売し、生きがいづくりを推進。活動拠点づくりに向けた試行）／配食サービス事業（週 1 回、約 20 名の高齢者に、おかずを配達。調理と配達を有償ボランティアで実施。町委託）

■豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会【景観　食　環境　レク　歴史】
①山郷佳克　②450 名（各団体を含む）　③平成 15 年 10 月
④森や木の大切さを PR していくという活動を通じて、色々な団体と連携して計画を立て、植樹や植栽をしていく。自然環境を守り、構築することで地域貢献を追求していく。毎年 1 回、秋頃に暑寒別川に隣接するパークゴルフ場やオートキャンプ場などに植林・植栽を積極的に行っている。

■新星マリン漁業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①林博行（代表理事組合長）②114 名　③平成 15 年 4 月 1 日
④協同組合運動の基本理念である自主・自立・相互扶助・大同団結の精神を基に、浜の幸せと地域貢献を追及する。自然環境を守り、海の幸を大切な資源として保護し、管理しながら利用する。各種会議やイベントに参加／うまいよ！るもい市に漁業青年部と共に参加／小平町産業祭りに漁業青年部と共に参加／7 月、8 月鬼鹿でウニの直売開始／留萌館内お魚普及協議会の一員として、各種イベント漁協女性部と共にお魚料理教室開催／漁協女性部で毎年植樹に参加／たこ箱オーナー制実施

■南るもい農業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①松本　勲　②8500 名　③平成 14 年 2 月 1 日
④営農販売事業、信用共済事業、購買事業のほか、農業振興、地域づくりに資する各種組合員活動を行っている。食の面では旭川空港での『そらべん』は好評を得ており、実際に引き合いが来ている。留萌スイーツやお菓子展も好評であった。

■留萌商工会議所【景観　食　環境　レク　歴史】
①沖田周一　②779 事業所　③昭和 22 年 1 月 29 日
④商工会議所は、昭和 38 年に制定された「商工会議所法」に基づき設立された「特別認可法人」であり、地域における商工業の総合的な改善発展を図るとともに、社会一般の福祉の増進に資することを目的に、地域の振興、商工業者の指導育成、各種イベントの実施及び支援を行っている。中小企業者への経営相談（金融･税務･労働･経理･経営･創業）／明るいまちづくり事業（ホワイトイルミネーション in るもい、商店街ごみゼロ運動）／やん衆あんどん祭／観光案内所開設支援／るもい音物語支援／商店街空き店舗活用支援事業／地域振興に関する意見活動

■(社)留萌青年会議所【景観　食　環境　レク　歴史】
①燕　昌克　②29 名　③昭和 31 年 3 月 3 日
④明るい豊かな社会実現のため、修練･奉仕･友情を三信条に、まちづくりに邁進する世界組織の政策団体。各種事業の開催（緑丘小学校 4 年生を対象に総合学習を実施「留萌発･未来行き 2007」、怒涛まつりへの参画。「かずっ子フェスタ～イエローダイヤ大作戦 07～」の開催、「第 7 回若松旗争奪少年野球大会」の開催、「このまちの未来への可能性～起爆剤の作り方」公開例会の実施、札幌にて「留萌の食 PR 大作戦 07」の実施）／各種まちづくりに関する会議等への参加

■NPO 法人留萌観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①道　重幸　②236 名（個人・団体）　③平成 19 年 5 月 1 日
④留萌市の観光施策と密接な連携を図り、地域経済の活性化を意識した積極的な事業展開を図るとともに、地域産業の活性化に結びつく物産振興事業を展開し、市民と一体となった観光振興事業を行う。観光受入及び広報宣伝事業（観光案内所の運営、観光マップ及び観光パンフレットの作成、協会ホームページを活用した広報活動）／観光イベント事業（各種イベントの協力、ゴールデンビーチるもい受入整備）／物産振興事業（地場産品ショップの運営、出店事業の参加）／受託事業（ゴールデンビーチるもい駐車場、観光案内所運営業務、礼受牧場畜産館管理業務）

①代表者　②会員数　③発足日　④団体概要及び活動状況
※団体名横の【　】は主な活動分類

■(株)エフエムもえる【景観　食　環境　レク　歴史】
①佐藤　太紀　②　③平成 16 年 10 月４日
④放送を通して地元の活性化を目指します。まちの聴こえる回覧板を合言葉に電波の届く範囲だけでなく、留萌管内の情報を発信している。小学生・中学生の社会学習受け入れ、各種イベント取材・放送、教職員の研修受け入れ、職業訓練所の職場体験受け入れ等をおこなっている。
※放送事項※　報道（ニュース、災害に帯する情報等）、生活情報（道路交通情報、天気予報、病院情報等）、行政情報（市広報誌等）、タウン情報（催しものの案内、施設利用の案内等）、観光情報（行楽地案内、観光施設の案内、宿泊施設の案内、イベントの案内等）、娯楽（音楽、スポーツ行事、演芸等）、広告（商業案内、スポット・アナウンス等）、その他（放送番組の予告等）

■小平町観光協会連合会【景観　食　環境　レク　歴史】
①藤田　貢　②5 団体 25 名以内（各観光協会会長・副会長及び理事）③昭和 38 年４月１日
④小平町における観光事業の円滑な推進。また、産業の発展と文化の向上に寄与することを目的として、町内各観光協会との連携及び協調体制の確立を図る。町内環境美化活動の推進／町内観光資源及び特産品の積極的な PR 活動／各観光協会が主催するイベントの支援／観光ホスピタリティの実践

■小平町商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①横山　徹　②115 名（青年部 19 名、女性部 37 名）　③昭和 36 年１月 23 日
④目的：商工業の総合的な改善発達を図り、社会一般の福祉増進／活動：経営改善普及事業（経営・税務・金融・決算・指導）、地域行事等への参加。小平町にしん番屋まつり参加／小平神社協力／小平町内盆踊り大会協力／小平町産業まつり協力／町内環境整備（商店街花一杯運動、交流センターへの花植栽、交通安全運動街頭啓発）／小平町三直市への参加（商工・農業・漁業の三団体）

■NPO ラシス・オビラ【景観　食　環境　レク　歴史】
①松村　暑　②６名　③平成 16 年１月
④地域および地域外の全ての人々を対象にして、まちづくりに関する情報の収集と提供を行い、また地域の産業、自然、文化及びスポーツ等を活用したふれあい体験活動を行うことで、地域交流と体験型まちづくりによる地域の活性化に寄与することを目的としている。

■苫前町観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①千葉國雄　②49 名　③昭和 36 年４月１日
④観光イベントの共催、観光客の誘致活動、各種メディア・旅行業者への情報提供、宿泊施設・観光名所の案内、交通機関の案内、特産品の PR 活動など、観光を目的とする旅行者の利便を図ると共に、観光地の整備事業を行う。各種イベントの開催及び共催（北海道凧あげ大会の共催、さくら祭りの共催、ホワイトビーチ海開き、北海道風車まつりの共催、苫前・古丹別両地区ふるさと祭りの共催、リンケージアップフェスティバルへの参加）／.観光情報の収集並びに発信／観光施設等の紹介

■苫前町商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①菊池　暢　②135 名　③昭和 35 年 12 月
④国、及び地方自治体、各産業団体、地域住民、関係機関と新たな連携体制の構築と実践的組織づくりの推進／個性ある住み良いまちづくりを念頭に、地域商工業の経営環境改善及び、地域産業振興支援の推進を行っている。環境美化事業（道路脇の花壇整備、各店舗前の花壇整備、イルミネーション事業、ベンチの設置）／各種まつり協力／エコバック製作／職業体験事業実施

■苫前町農業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①松原幸博　②組合員 484 名・準組合員 906 名＝計 1390 名　③昭和 23 年４月８日
④営農販売事業、信用共済事業、購買事業のほか、農業振興、地域づくりに資する各種組合員活動をおこなっている。女性部では餅つきや特産品開発を行っている。

■北るもい漁業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①今　隆　②354 名　③昭和 24 年（羽幌）、平成 8 年（羽幌町）、平成 16 年（北るもい）
④平成１６年、当時の天塩漁協、初山別、羽幌町漁協、苫前漁協の４つの漁協が組織強化を目的に合併、設立した。信用共済事業、販売事業、購買事業、指導事業などのほか、漁業振興に関わる各種施策、直売所「海楽市場」の運営、海産品のインターネット販売などをおこなっている。管内の漁業生産高や漁業経営の現状を分析しながら、魚離れや消費者ニーズに対応する産地・流通の改革など進めるお魚普及協議会の活動に参画している。また、青年部では、子供たちに漁業のことを教える取り組みも行っている。

■羽幌町観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①名達憲次　②160 名　③昭和 39 年４月
④羽幌町の観光振興の発展と推進を目的とし、昭和 39 年に羽幌、天売、焼尻の３地区の観光協会組織を再編。離島観光を始め、羽幌町の観光事業に積極的に活動し努めている。主に海水浴場･公園の整備、観光イベントの企画･開催、観光キャラバン等の実施。観光客の誘致宣伝等。近郊町村で協議会を発足し、ご当地メニューを研究･開発し販売した。各種イベントの開催（島開き実施、えびタコ餃子発表会（広域３町村協議会）、みのや雅彦＆寺沢孝毅フォト＆ミュージックライブ実施（羽幌支所））、ツール･ド･天売＆焼尻アイランド（天売･焼尻支部）、はぼろサンセットビーチオープン、サンセット王国祭共催、羽幌花火大会実施、焼尻めん羊まつり（焼尻支部）、はぼろ味まつり実施、北海道観光大会開催（北海道観光連盟主催））／観光パンフレットの作成／旅行情報雑誌に観光情報を特集掲載し、また、テレビ番組でも観光情報を PR。／修学旅行誘致活動

■羽幌町商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①有澤護　②325 名　③昭和 35 年 12 月 15 日
④地域振興につながる事業の相談・指導、情報・資料の提供、経営に関わる各種講習会・説明会の実施、各種イベントへの協力、その他会員による部会活動などをおこなっている。苫前、羽幌、初山別の広域連携（パイロット事業）として『エビタコ街道』の取組みを展開している。

■初山別村商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①鎌田健治　②50 名　③S36 年１月
④「桜まつり」「岬まつり」「産業まつり」「初山別雪まつり」など、まちのイベントに取り組んでいる。「道商工青連 35 周年記念事業」では、水浴客に気持ち良く泳いで頂くために、豊岬海水浴場の清掃を行った。第 17 回初山別産業商工祭「秋味覚まつり」では、会場内での「環境づくり事業」の一環として、携帯用の吸殻入れの配布を行った。アイデアとしては、山菜集めて流通経路確保、市場や温泉で販売することを考えている。建設関連だと山菜のありかも熟知しているので実現性が高い。女性部では食に関する取組みがある。今は広域連携。苫前と羽幌との繋がりが多い。

■オロロン農業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①林　弘之　②1156 名　③H15 年８月１日
④営農販売事業、信用共済事業、購買事業のほか、農業振興、地域づくりに資する各種組合員活動をおこなっている。

①代表者　②会員数　③発足日　④団体概要及び活動状況
※団体名横の【　】は主な活動分類

■初山別村観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①杉山克夫　②48 団体　③昭和 48 年５月 18 日
④村の観光事業の振興を図り、産業文化経済の向上発展に寄与することを目的として特産品の紹介宣伝や観光客誘致、イベントなどを行っている。イベントの開催（桜まつり、初山別道の駅オープン記念イベント、豊岬海水浴場海開き、岬まつり、青空市）／3 町村（苫前町、羽幌町、初山別村）での修学旅行客、観光客誘致。

■遠別町観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①斉藤　昇　②65 名（町、経済団体、法人会員、個人会員）　③昭和 45 年４月１日
④遠別町における観光事業の振興発展を図り、地域文化、産業経済の進展に寄与することを目的とした団体であり、町内イベントの後援・協賛や遠別町を PR するために、物産展等に参加をしている。富士見ヶ丘公園開き山菜まつり／海水浴場オープン事業（ビーチバレーボール大会）／仮装盆踊り大会・行灯パレード／リンケージアップフェスティバル（札幌市）参加団体に対する参加費の助成

■遠別商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①兼平忠義　②140 名　③昭和 35 年 12 月 27 日
④「遠別どっさりまつり」「さわやかスポーツ祭り」「ふるさと音楽会」「えんべつ冬まつり」など、いくつものイベントに取り組んできました。これらのイベントと観光面との結び付きをよりいっそう強めながら、イベントの活性化に努めていく。

■（株）遠別町産業振興公社【景観　食　環境　レク　歴史】
①小林一之　②15 名　③平成 13 年６月 13 日
④農業や農水産物の特産品製造･販売を目的とし、19 年度については、下水道汚泥堆肥化業務･堆肥製造センターの指定管理業務及び有機トマトジュース･鮭の山漬け製造･販売を計画し、『菜の花』の適性品種及び栽培技術の開発を行い菜の花から取った菜種油の試作を行う。又、遠別町産品としての知名度がないことから、市町村が進める地域づくりと連動し、町内はもとより、道内における各種イベント等に参加して販路拡大に向けた PR を行う。下水道汚泥の堆肥化業務／堆肥製造センターの指定管理業務／トマトジュースの製造･販売（JA オロロン遠別支所女性部との協力、有機トマトの栽培、トマトは多品種の試作）／その他（農水産物の特産品（かぼちゃ、長芋、アスパラ、タコ、魚介類）の販売協力を行う。又町内に菜の花･ひまわりを試験栽培。）

■遠別漁業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①千葉光悦　②30 名　③昭和 24 年 10 月８日
④信用共済事業、販売事業、購買事業、指導事業などをおこなっている。ホッキと鮭がメインの漁獲で漁自体は GW 明けから６月一杯が中心。

■天塩町観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①水口俊夫　②８４件（４３団体、４１個人）　③昭和 50 年6月 18 日
④観光イベントの開催及び共催、観光客の誘致活動、マスメディアへのプレゼンテーション、各種メディア・旅行業者への情報提供、宿泊施設・観光名所の案内、交通機関の案内など、観光を目的とする旅行者の利便を図ると共に、観光地の整備事業を行う。各種イベントの開催及び共催（鏡沼しじみまつり開催、天塩川港まつりの共催、秋の味まつりの開催）／観光情報の収集並びに発信（釣り情報発信事業）／観光施設等の紹介並びに観光案内板の設置

■天塩町農業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①太田秀吉　②522 名　③平成 13 年３月１日
④営農指導、農産物の共同販売、生産資材や生活物資の共同購入、貯金の受入れ、資金の貸付け、共済事業、福祉事業など様々な事業を行っている。

■天塩商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①瀬越正巳　②142 名　③昭和 35 年 12 月 27 日
④地区内における商工業の総合的な改善を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資し、もって国民経済の健全な発展に寄与する。商工会の運営及び事務処理／金融、経営、政務、労働等の指導、支援／行政との連絡･調整

■天塩川を清流にする会【景観　食　環境　レク　歴史】
①山口研吉　②70 人　③平成８年 11 月 13 日
④天塩川やその流域の環境保全活動を通じて地域づくりの一役を担う目的に組織され、特に天塩川流域の清掃や花や緑を植栽し観光施設などの充実整備を行っている。天塩川の清掃環境美化活動（鏡沼海浜公園及び周辺の清掃実施、天塩川クリーンアップ大作戦参加、ロクシナイ川清掃実施、鏡沼海浜公園ハマナスの丘づくり）／.天塩川流域の調査・研究／天塩川の通信簿づくり／講演会の開催

■フラワーフレンドリーてしお【景観　食　環境　レク　歴史】
①藤井義雄　②60 名　③平成８年４月 25 日
④花や木による美しいまちづくりを推進するため、ボランティア活動を通じて会員相互の情報交換と親睦融和を図り、明るく住みよい魅力ある郷土「てしお」を創造することを目的としている。花壇の床づくり･苗植付／鏡沼海浜公園清掃ボランティア／散水、雑草取（1 週間毎に当番を決めて）／赤レンガまつりに出店／花壇の後片付け／研修交流会

■幌延町観光協会【景観　食　環境　レク　歴史】
①船木泰雄　②53 名（団体も含む）　③昭和 46 年８月
④観光イベントの開催及び共催、観光客の誘致活動、マスメディアへのプレゼンテーション、各種メディア・旅行業者への情報提供、宿泊施設・観光名所の案内、交通機関の案内など観光を目的とする旅行者の利便を図ると共に、観光地の整備事業を行っている。

■幌延町商工会【景観　食　環境　レク　歴史】
①松永継男　②113 名　③昭和 35 年 12 月１日
④地域内商工業者の経営の改善に関する相談と指導、及び地域経済振興を図るための活動を行っている。経営改善普及事業（指導、研修会開催、金融等）／2.地域振興事業（要望活動、団体交流事業等）

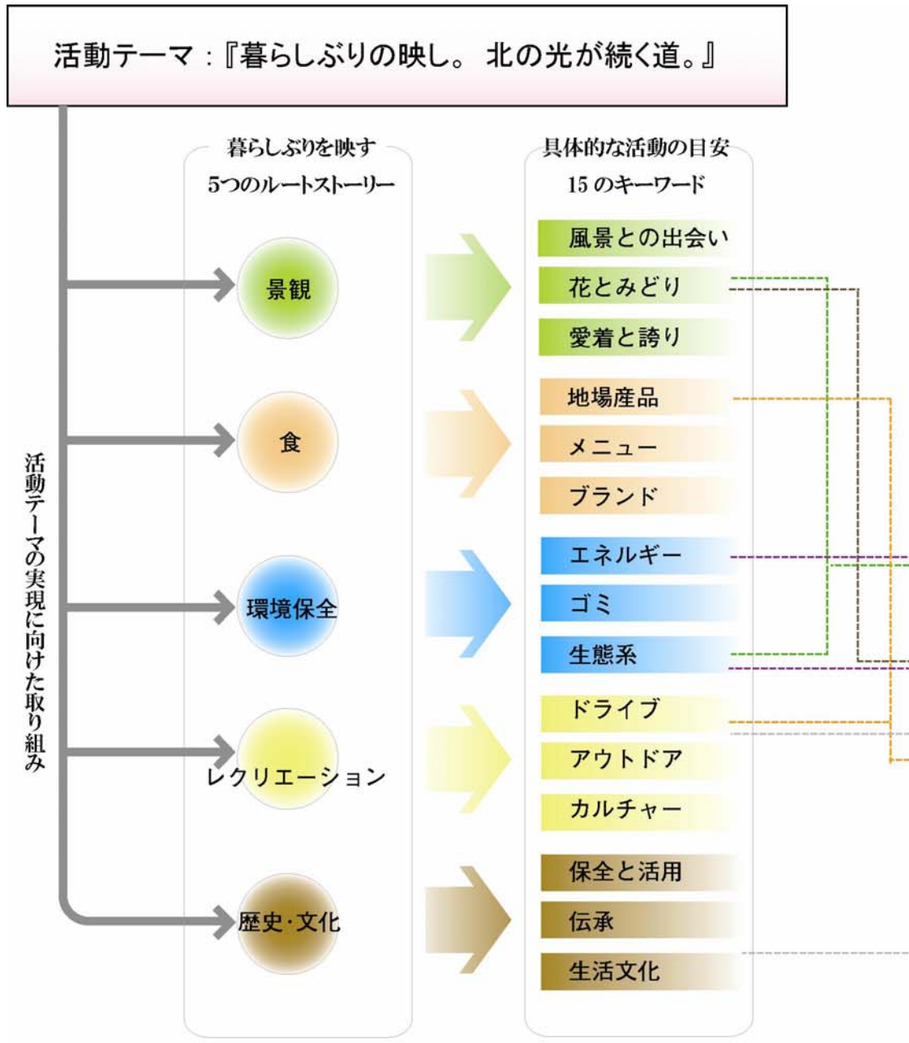
■幌延町農業協同組合【景観　食　環境　レク　歴史】
①木村　誠　②正組合員 248 名・準組合員 568 名=816 名　③平成４年３月１日
④平成 ４ 年に旧幌延農協と旧問寒別農協が合併し基盤強化・経営の合理化・効率化を目指し現在に至っている。営農販売事業、信用共済事業、購買事業のほか、農業振興、地域づくりに資する各種組合員活動をおこなっている。組合としては、乳製品が中心となる。加工して製品化して販売という流れでは、様々な規制があるのが悩み。処分（消費）についても考えなければならない。農協でのイベントとしては、組合員を対象とした「酪農フェスティバル」があり、ゲームや焼肉などを行っている。食に関して、牛乳を応用した製品、例えばチーズの消費拡大をねらった取組みを考えたい。

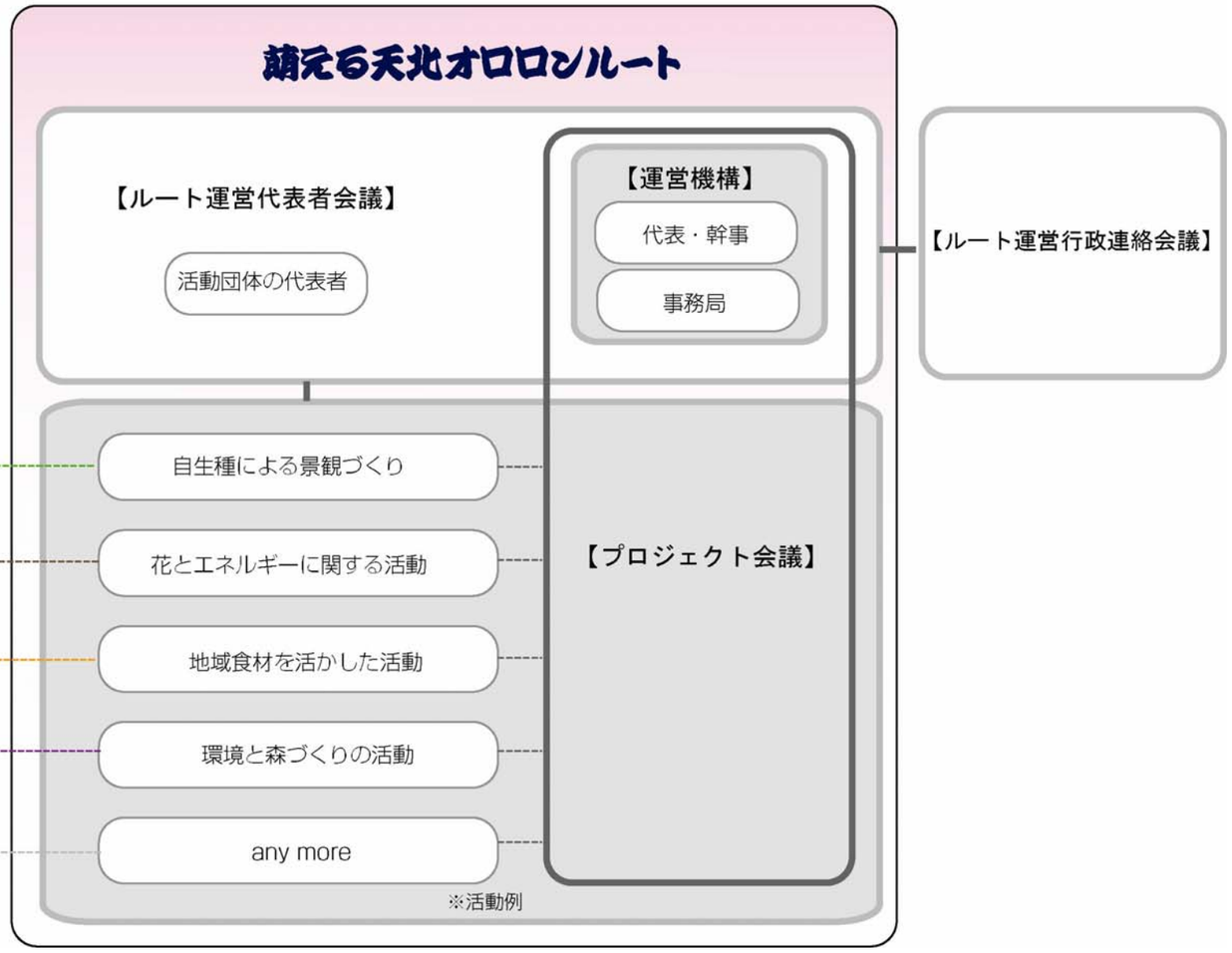
■NPOサロベツ（特定非営利活動法人）【景観　食　環境　レク　歴史】
①　菅原利彦　②３４名　③平成 17 年7月7日
④幌延町及び隣接する地域住民に対し、豊かな地域づくりのために高齢者福祉、地域の安全および自然環境に関する事業を通して、地域振興に寄与することを目的としている。各種イベント等の開催（交通安全カレンダーの作製、年４回の高齢者交流会、冬期間の氷上チカ釣り等の自然体験）／各官公庁の自然環境を守る事業への参加・協力／その他

（2）運営体制の基本的な考え方

萌える天北オロロンルートでは、活動テーマ：『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』の実現のためにルート運営代表者会議を意思決定機関とし、活動の窓口となる幹事を中心とした運営機構によって、各種活動の調整やルート運営活動計画と具体的な活動との整合･提案･調整などを行います。

各活動は、先に示した５つのルートストーリーとキーワードに基づき、活動団体等からの発意によって、プロジェクトを立ち上げます。プロジェクトは、複数のプロジェクト担当および運営機構（代表・幹事、事務局）により構成する「プロジェクト会議」において、ルートストーリーに基づきプロジェクトの整合と相互の調整を検討した上で各種活動を展開します。





（3） 組織の役割

1）ルート運営代表者会議

ルート運営代表者会議は、ルートの運営に関する意思決定機関であり、活動団体の代表者によって構成されます。主な協議内容は、以下の事項になります。

- ・ルートの運営についての意思決定
- ・ルート運営活動計画の策定および活動推進
- ・団体の入会および退会の決定
- ・その他代表が必要と認める事項

なお、代表は 1 名、幹事（代表補佐）は若干名とし、ルート運営代表者会議において決定します。事務局は、「エフエムもえる」に置くものとし、情報提供活動の中心的な役割を担います。また、運営機構の実務も行います。

2）運営機構

運営機構は、各種会議の開催、他機関との連絡調整等を行う機関であり、代表、幹事および事務局により構成されます。

運営機構は、活動団体および本ルートの活動に賛同する個人から提案されたプロジェクトについての適否を確認し、適宜、ルート運営代表者会議に諮ります。ルートの活動として推進するプロジェクトについては、関係機関との協議、調整を行うこともあります。

また主な役割は、各種会議における連絡調整・準備・進行、行政連絡会議との連携に関わる調整、シーニックバイウェイ支援センターとの調整、その他ルート運営に関する各種事務等になります。

3）プロジェクト会議

プロジェクト会議は、ルートにおける活動の企画・研究・実施の実質的な主体であり、運営機構（代表・幹事、事務局）およびプロジェクト担当者によって構成されます。

プロジェクト会議は、各プロジェクトの進捗報告や相談、プロジェクト間の調整等を行います。

また、活動団体およびルートの活動に賛同する個人から、「萌える天北オロロンルート」の活動として取り組みたい企画について自発的な提案があった場合には協議、調整を行います。

■役　員

代　　表：西 大志（苫前町）
幹　　事：山郷佳克（増毛町）／澤田知明（留萌市）／石黒朋幸（小平町）／山本弘己（羽幌町）
　　武田弘樹（初山別村）／片岡俊浩（遠別町）／鹿児島 剛（天塩町）／西澤裕之（幌延町）
事務局：佐藤太紀（留萌市）／村山ゆかり（留萌市）／廣島昌美（留萌市）

■活動団体（36 団体）

増毛町観光協会／増毛漁業協同組合／／増毛町商工会／ゆうゆうマーシー／豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会／新星マリン漁業協同組合／南るもい農業協同組合／留萌商工会議所／留萌青年会議所／留萌観光協会／エフエムもえる／小平町観光協会連合会／小平町商工会／NPO ラシス･オビラ／苫前町観光協会／苫前町商工会／苫前町農業協同組合／北るもい漁業協同組合／羽幌町観光協会／羽幌町商工会／初山別村商工会／オロロン農業協同組合／初山別村観光協会／遠別町観光協会／遠別商工会／遠別町漁業協同組合／遠別町産業振興公社／天塩町観光協会／天塩町農業協同組合／天塩商工会／フラワーフレンドリー天塩／天塩川を清流にする会／幌延町観光協会／幌延町商工会／幌延町農業協同組合／NPO サロベツ

■関係市町村（9自治体）

増毛町／留萌市／小平町／苫前町／羽幌町／初山別村／遠別町／天塩町／幌延町

(4) プロジェクト制について

「萌える天北オロロンルート」の活動は、各活動団体および団体内の個人の自主的な発意による「プロジェクト」を基本とします。それぞれのプロジェクトでは、個別の活動団体・個人、もしくは複数団体・個人の連携（プロジェクトチーム）による担当者（プロジェクト担当者）によって、企画・運営・活動を行います。各団体、個人が複数のプロジェクトに関わるケースもあります。

1) プロジェクトの企画

それぞれの「プロジェクト」は、将来目標像としての「ルートストーリー」を実現するための個別の取り組みとして位置づけられます。このため、各プロジェクトでは、ルートストーリーにおける「キーワード」を活動の指標として、企画内容を検討します。（ひとつのプロジェクトに複数のキーワードが含まれることが想定されます）

■ルートストーリーの項目とキーワード

項　目	キーワード		
1.景観	風景との出会い	花とみどり	愛着と誇り
2.食	地場産品	メニュー	ブランド
3.環境保全	エネルギー	ゴミ	生態系
4.レクリエーション	ドライブ	アウトドア	カルチャー
5.歴史・文化	保全と活用	伝承	生活文化

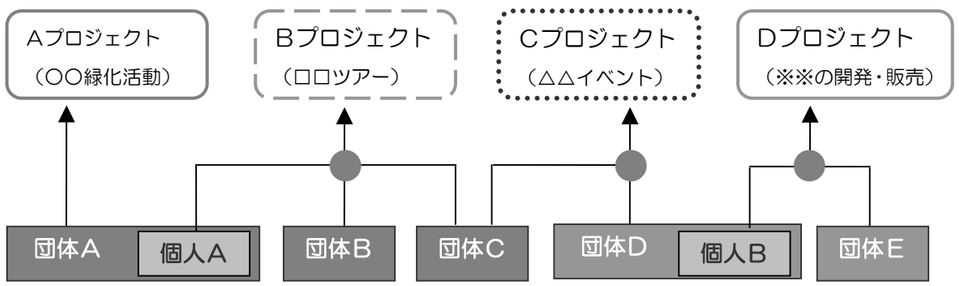
■プロジェクト企画のポイント

①ルート沿道の景観形成に関わる活動
②ルート全体および複数自治体に関わる活動
③複数の活動団体の連携による活動

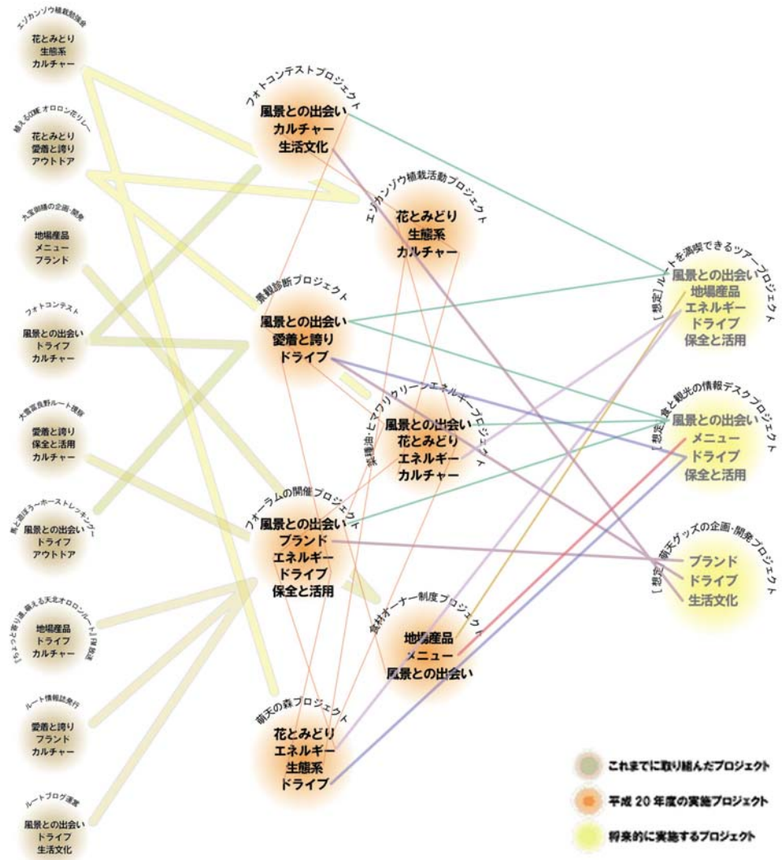
2) プロジェクトの構成イメージ

それぞれのプロジェクトは、複数のキーワードを含み、各々が相互に関係しながら、このような有機的なネットワークを網の目状に張り巡らして団体間の連携を図り、ルートストーリーを実現していきます。

■プロジェクトへの参画イメージ



■プロジェクトの構成イメージ



（５）短中長期運営スケジュール

基本方針	活動のキーワード	（候補ルート）	短期 1年目	短期 2年目	短期 3年目	中期 4年目	中期 5年目	中期 6年目	長期 7年目	長期 8年目	長期 9年目	長期 10年目	摘要
1.景観 愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	風景と出会いの演出	景観の調査	ビューポイント等の施設整備			景観に関わる保全・創出施策の展開							
	花とみどりの景観づくり	植栽活動の試行	植栽活動の拡大・継続										
	愛着と誇りの醸成		景観診断の実施（9市町村）		景観ルールの検討	景観に関する制度の運用・検証							
2. 食 自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	地場産品の魅力づけ	「食」イベントの試行	「食」イベントの拡大・継続										
	新メニューの企画		食材オーナー制度の構築			食材オーナー制度の多面的な展開							
	地域ブランドの構築	商品開発の試行	ブランドづくりの検討			ブランドの構築、PR、販売促進等の戦略的展開							
3.環境保全 地域に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進	クリーンエネルギーのイメージづくり		植物由来のクリーンエネルギー事業の試行			クリーンエネルギーの活用（流通、販売の研究など）							
	ゴミ対策の取り組み		連携型美化活動の試行			連携型美化活動の拡大・継続							
	身近な生態系の保全・復元		カーボンオフセット事業（萌天の森）の試行			CO2対策に関わる施策の検討・試行			CO2対策に関わる施策の拡大・継続				
4.レクリエーション 暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	ロングドライブのサポート		連携型ツアーの企画と試行			連携型ツアーの拡大と継続							
	身近なアウトドアの紹介		体験型観光メニューの発掘と整理			体験型観光メニューの提供							
	各種カルチャー活動による交流		ホスピタリティ醸成に向けた勉強会の実施						観光ボランティア等の育成と組織化				
5. 歴史・文化 先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ	歴史資源の保全と活用		歴史・文化資源の発掘・整理			歴史・文化資源の活用							
	次世代への歴史伝承		ヒアリングによる歴史文化の記録（アーカイブ）			アーカイブの地域展開							
	独自の生活文化の発見		生活文化に関わる活動の整理と連携の試行			生活文化に関わる連携活動の拡大・継続							
○情報提供活動		複数メディアによる情報発信の試行	メディア戦略の確立			メディア戦略の確立							
		ポータルサイトの構築	ポータルサイトの継続的運用										

シーニックバイウェイ北海道

萌える天北オロロンルート

ルート運営活動計画　参考資料

参考資料1　これからのプロジェクト

（1）プロジェクトの構成

活動のテーマ	『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』

		1.景観			2.食			3.環境保全			4.レクリエーション			5.歴史・文化		
ルートストーリー（将来展開）		萌える天北オロロンルートには、この地の風景を楽しむために多くの人が訪れています。地域の人々は、沿道に花を植え、見苦しい看板や廃屋を取り除き、また、地域にふさわしい建物や施設のデザインを検討しながら、ルートの風景に愛着と誇りをもって、様々な取り組みを継続的に進めます。			萌える天北オロロンルートでは、まず自らが自然の恩恵である地元の食材を味わい、楽しむために、生産者と消費者が一体となった地域ぐるみの活動を展開します。また、さらにより多くの人たちに味わってもらうために、その魅力をＰＲし、新しいメニュー作りにも取り組みます。このような活動を通じて地域ブランドを構築し、この地域の「食」が全国、全世界へと発信します。			萌える天北オロロンルートでは、ＣＯ２削減に向けた新エネルギーの導入や、身近なゴミの問題、そして地域の生態系を守り育てる活動などを通じて自然との共生を実践し、環境先進地域として、他に先駆けた取り組みを進めます。			萌える天北オロロンルートでは、私達が楽しんでいるアウトドアスポーツやカルチャーメニューを一つ一つ丁寧に用意するとともに、迎える側としてのホスピタリティを充実し、地域と訪れる人々との間に笑顔と暖かい交流を世界へと広げます。			萌える天北オロロンルートでは、先人から受け継いだこれらの貴重な資源を守り育て、そして、過去から現在にいたる悠久の物語を語り継ぎます。また、この地ならではの気象や地形、また人々の気質や共有される価値観に根ざした生活文化を将来に伝えます。		
基本方針		愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出			自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信			地域に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進			暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり			先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ		
基本方針におけるキーワード		**風景との出会い**の演出	**花とみどり**の景観づくり	**愛着と誇り**の醸成	**地場産品**の魅力づけ	新**メニュー**の企画	地域**ブランド**の構築	クリーン**エネルギー**のイメージづくり	**ゴミ**対策の取り組み	身近な**生態系**の保全・復元	ロング**ドライブ**のサポート	身近な**アウトドア**の紹介	各種**カルチャー**活動による交流	歴史資源の**保全と活用**	次世代への歴史**伝承**	独自の**生活文化**の発見
プロジェクト	フォトコンテスト	●											●			●
	エゾカンゾウ植栽活動		●							●			●			
	景観診断	●		●							●					
	菜種油・ヒマワリクリーンエネルギー	●	●					●					●			
	フォーラムの開催	●					●	●			●			●		
	食材オーナー制度				●	●	●									
	萌天の森		●					●		●	●					
情報受発信（全項目に関係）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
長期展望	（想定）ルートを満喫できるツアー	●			●			●			●			●		
	（想定）萌天グッズの企画･開発						●				●					●
	（想定）食と観光の情報デスク	●				●					●			●		

(2) 平成20年度プロジェクトの内容

1) フォトコンテストプロジェクト

目　的：　ルート景観の発掘による地域の意識喚起と観光来訪のための地域 PR 戦略の実行。

概　要：　周知方法の改善や期間設定の変更を行い、多種多様な季節･被写体を集約できるコンテストとする。さらにカメラ付携帯電話による応募を実施して、より身近な被写体を資源として見つめられる活動とする。

ねらい：　地域内外に対するルート景観の PR をすることで地域の良さを認識させる。／写真素材とブログを活用したコミュニケーションにより萌天ファンづくりを行う。／新部門の設置による応募者の底辺拡大とルート活動の認知度を向上させる。／認知度とともにスポンサー企業等にメリットが生まれ広報活動を活発化させる。

■平成18年度フォトコンテスト（審査状況）

■平成18年度フォトコンテスト（表彰式）

■平成18年度フォトコンテスト（巡回展）

2) エゾカンゾウ植栽プロジェクト

目　的：　人と人、人と自然との繋がりによる気候風土にふさわしい花の景観づくり

概　要：　小平町民が取り組んでいる『地域協働による緑花の推進』に足並みを合わせ、自生種である『エゾカンゾウ』の種取り･苗作り･植栽の一連の活動により、自生種によるルートにふさわしい景観づくりを展開する。植栽は、道路法面や道の駅周辺などドライブシーンに効果が期待される場所に行ない、将来的にはシーニック活動のネットワークを活用して、ルート全体にこの運動を展開させる。

ねらい：　道路拡幅などで失われた自生植物の風景を復元させる。／ルート内の自生植物の多様性や種子の採取法、育て方をルート内に広める。／ルートならではのドライブシーン１つとして紹介する

■小平小学校児童による苗づくり

■道の駅駐車場での植栽活動

■道路法面に復元したエゾカンゾウ

3) 景観診断プロジェクト

目　的：　活動団体が共有するルートイメージづくりとドライブ観光によるビジネス展開。

概　要：　ルート全体として食による観光の展開を進めるなか、食を求めながらのドライブ観光という点では、ルート内の景観や沿道施設の良さを来訪者に十分に伝えてきれていないのが現状である。「単調」「どこも同じ」と言った誤ったイメージを払拭するために、ドライバーの視点に立った景観ポイントを明らかにし、ルートの良さを明確にする。

ねらい：　道路･沿道利用に関するニーズの把握と行政連携による解決策の進展。／36 の活動団体の参画によるルートイメージの共有化と日常的な交流の活発化。／観光事業者の商品開発意欲の高揚と具体的なビジネス展開。

■ワークショップ形式による身近な景観資源の発掘と問題点の共有

4) 菜種油･ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト

目　的：　将来的なクリーンエネルギー製造とあわせたルート沿道における産業景観づくり

概　要：　遠別町産業振興公社とのタイアップにより、ひまわり･菜の花畑によるエネルギー研究と足並みを合せて道路景観イメージを高められるような栽培活動を共同で実施する。実施にあたっては、関係自治体等との調整により、ルート内の道路敷地や沿道の休耕地、町有地などを活用させていただく

ねらい：　試験栽培データを今後の研究開発に活かす。／ルート内各種事業者のクリーンエネルギーの製造への理解と参画。／風車などの他のエネルギーと併せたルート内のクリーンなイメージづくり。

■平成19年度のルート内の道路敷地や沿道の休耕地を使ったヒマワリ畑の取り組み状況

5) フォーラム開催プロジェクト

目　的：　各種プロジェクトの取り組みを周知するとともに参加動機の拡大を図る。

概　要：　①『シーニックの使い方』や『暮らしぶり』をテーマとした基調講演とパネルディスカッション構成。活動団体や行政機関、観光に関わる民間企業等を対象とする。／ ②『屋台食の駅（留萌 JC）』に連動した食と観光に関するパネルディスカッション並びにステージイベントを実施する。『うまいよ！るもい市（留萌観光協会）』を会場とし、イベントに訪れた一般客を対象とする。

ねらい：　地域資源（食材）の PR と合わせたコミュニティビジネスの試行。／ツアーやドライブ観光の拡大による宿泊・物販分野への波及。

■ディスカッションのイメージ

■ステージイベントのイメージ

■ステージイベントのイメージ

6) 食材オーナー制度プロジェクト

目　的：　体験を通してルート内の海産物や農作物等の魅力を来訪者に知ってもらう。

概　要：　ルート内では一般に知られていない高級食材が生産されている。この魅力を広くルート内外に知らしめ、新たな付加価値とブランド化を図るとともに、漁協等の協力による一日漁師体験などの企画・運営により、地域の暮らしぶりを体験してもらう。

ねらい：　地域資源（食材）の PR と合わせたコミュニティビジネスの試行。／ツアーやドライブ観光の拡大による宿泊・物販分野への波及。

■ルートの暮らしならではの豪快な料理と生業を知ってもらう

7) 萌天の森プロジェクト

目　的：　『森づくり』をきっかけにルートでの暮らしを通じて地球温暖化対策の機運を高める。

概　要：　車両の利用によって、ルート内で排出する CO2 をルートで吸収したいという思いから、車から排出される CO2 に見合うだけの量を樹木が吸収させるための植樹活動を行う。活動は、ルート内の遊休地や荒廃地を用いて景観の向上も兼ね合わせたものとするとともに、大人から子どもまで幅広い参加を募ることで森づくりを通じたコミュニケーションの向上を図る。

ねらい：　地域の将来を担っていく子ども達とともに樹木の大切さを一緒に学ぶ。／土地の履歴を通じて道路と土地利用の歴史をたどる。／樹木が『材』として使い続けることの環境的価値を知る。／地球環境と地域の歴史・文化・生活を一緒に考えドライブ観光に寄与する。

■19 年度の活動状況

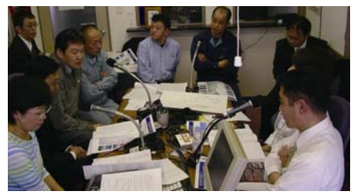
8) 情報受発信プロジェクト

目　的：　ルート内外に様々な魅力を受発信するとともに、各種プロジェクトをバックアップする。

概　要：　情報誌やラジオ放送、ウェブサイト、電話など、あらゆる通信手段を活用してルート活動の PR を行う。ルート内を適時取材するとともに、きめ細かい情報をルート内住民から広く提供してもらうことで、情報を収集する。PR 活動では、それぞれの通信手段の特性を見極め、戦略に基づく効率的、効果的な情報発信を行う。また、行政の協力により各市町村の広報誌にルートトピックスを定期掲載するなど、統一的な取り組みも合わせて展開する。

ねらい：　フリーペーパなどの紙媒体では、主に長期的、統一的な情報を各種施設で配布して、ドライブを含めた人の立ち寄りを促す。／電波媒体では、即時性を活かして地域のタイムリーな話題をルート内に発信し、イベントや季節の話題でルートへの関心を高める。／電子媒体では、ルートの基本的な考え方を示すとともに、双方向性を活かしたコミュニケーションツールとして、ルート内外のあらゆるルート情報の提供と創出を図る。

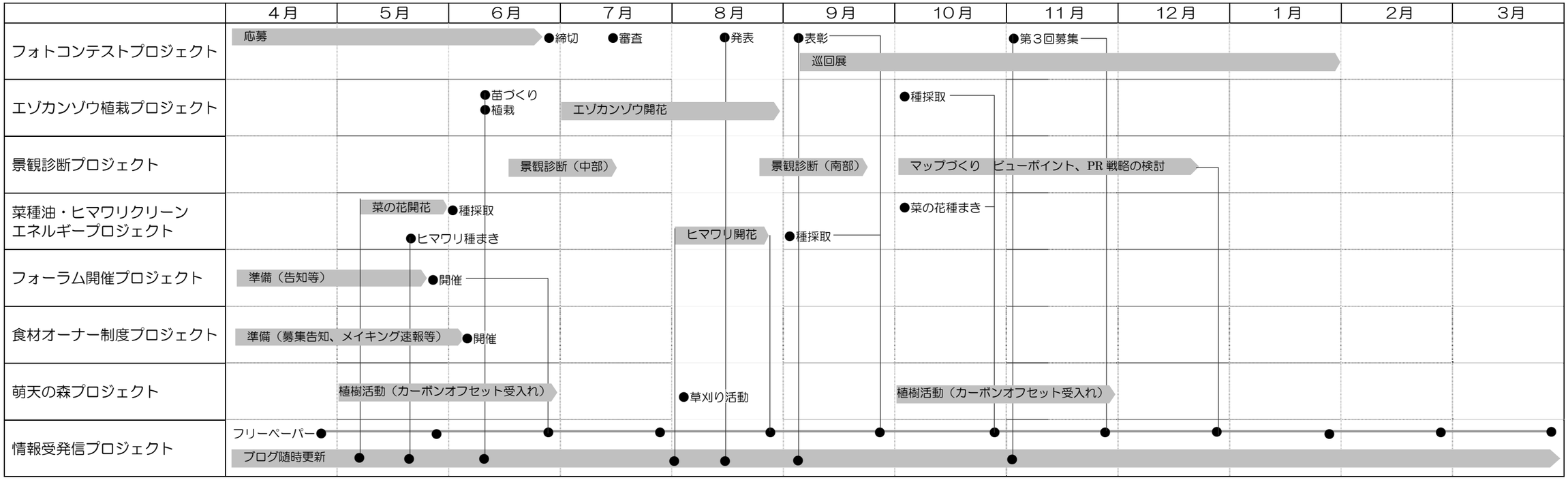
■ブログによる受発信



■ラジオによる発信

■フリーペーパーによる告知

(3) 平成20年度プロジェクトスケジュール



(4) 長期展望プロジェクト

長期展望プロジェクトとは、団体相互の連携や資金面での自立、ホスピタリティの充実など、ドライブ観光ルートとして総合力を必要とするプロジェクトと位置づける。私たちは、先に示したプロジェクトについて着実に成果をあげながら、将来的には、以下の３つの長期展望プロジェクトを想定し、目標に掲げながらノウハウの蓄積と体制づくりを展開する。

①ルートを満喫できるツアー（想定）

私たちの『暮らしぶり』を楽しんでいただき、交流を深められるような独自性のある観光ツアーを将来的に実施する。そのために、『食材オーナー制度プロジェクト』や『萌天の森プロジェクト』、『エゾカンゾウ植栽活動プロジェクト』の取り組みをとおして、観光のあり方やルートの環境づくりを学び、ツアーの魅力を育む。

②萌天グッズの企画・開発（想定）

全国へ萌える天北オロロンルートを知っていただき、訪れてもらうために、ルートオリジナルのカレンダーや切手といったグッズの企画・開発を進めるなど、イメージ戦略を展開。そのために、資金確保とノウハウとともに『景観診断プロジェクト』や『情報受発信プロジェクト』において、ソフト面、ハード面のデザインイメージの構築を図る。

③食と観光の情報デスク（想定）

情報受発信プロジェクトを発展させ、36 の活動団体ならびに市町村が連動した “電話のコンシェルジュ” を展開します。季節により多忙な各団体の手が届かない “隙間” を狙い、将来的に代行サービスとしてビジネス化を狙う。そのために、『フォトコンテストプロジェクト』や『食材オーナー制度プロジェクト』等において関連情報を蓄積するとともに、『情報受発信プロジェクト』の取り組みによって迅速な情報ネットワークを確立する。

参考資料2　これまでの活動実績

平成18年度の取り組み

エゾカンゾウの植栽

　エゾカンゾウは地域に自生する植物で、ルート内では小平町民が沿道への植栽に取り組んでいます。この取り組みをルート全体に広げるために、萌える天北オロロンルートでは、幹事が中心となり勉強会や植栽活動に参加しました。

　将来的には 9 市町村それぞれが取り組み、ルートをエゾカンゾウでつなげていくことを目標としています。

■種から育てた苗をポッドに移植する作業
（平成 18 年 6 月 18 日）

■種から育てた苗をポッドに移植する作業
（平成 18 年 6 月 18 日）

■種取りと苗の植栽
（平成 18 年 9 月 6 日）

植える COME オロロン花リレー（平成 18 年 8 月 27 日実施）

　平成１８年度で最後となる「日本海オロロントライアスロン国際大会」と時期をあわせて、９市町村毎にコース沿道をプランター等の花で飾る「植える COME オロロン花リレー」を実施しました。この活動は、「エゾカンゾウ緑花ボランティア」や「ヒマワリ・菜の花クリーンエネルギー」などのルートを花でつなげる一連の活動を盛り上げるためのキックオフ的な取り組みとしてイベント的に実施しました。

　各まちの沿道を様々な種類の花で飾り、最後のトライアスロン大会に文字通り花を添えました。

幌延町

天塩町

遠別町

初山別村

羽幌町

苫前町

小平町

留萌市

増毛町

九宝御膳の開発と販売（平成 18 年 7 月 16 日販売）

　留萌市青年会議所 50 周年イベント（留萌市）とあわせて、９市町村の特産物を使用した弁当（九宝御前）を企画、製作、販売しました。弁当の製作にあたっては、９市町村の様々な団体から食材の提供を受け、調理やパッケージデザインも地元でおこないました。弁当は 1300 円で 100 セット販売し、好評のうちに完売しました。この取り組みは、「道の駅弁」などの新しいメニュー開発の最初のきっかけとなりました。

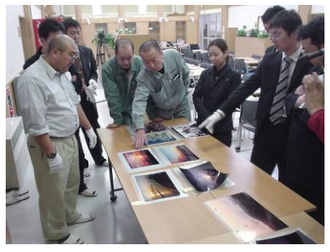
■九宝御膳

■販売の状況

■青年会議所 50 周年イベント

萌える天北オロロンルートフォトコンテスト

　エリア内外の人達に景観に対する意識を高めてもらうとともに、留萌管内の景観の移り変わりを記録に残し、また商品開発の一助になるように、フォトコンテストを実施しました。フォトコンテストには、最終的に 45 名、99 点の応募があり、審査の結果 13 の作品が入選となりました。入選作品は、９市町村全てにおいて巡回展を行い、ルートの風景を広く紹介しました。



■審査の状況

■表彰式（平成 19 年 3 月 11 日）

■ルート巡回展

平成18年度の取り組み

萌える天北オロロンルートパネル展

　各市町村のイベント等とあわせて、シーニックバイウェイ北海道および萌える天北オロロンルートを紹介するパネル展示をおこないました。パネル展は各まちの幹事が中心となり、専用ブースを設け、展示とあわせて、エゾカンゾウの苗の配布やトレジャーマップの販売なども行いました。

■オロロントライアスロン閉会式（羽幌町）

■るもい川まつり（留萌市）

■旭川空港における展示

大雪富良野ルートの視察（平成 18 年 10 月 14 日実施）

　シーニックバイウェイ北海道の先進地である「大雪富良野ルート」を視察し、留萌地域への展開、各種団体、行政との連携などについて、今後の留萌地域での活動展開の検討材料とすることを目的として大雪富良野ルート見学会を行いました。
　見学会では、大雪富良野ルートからお二人の方にお話をいただき、先進地の活動状況、運営方法など、今後のルート運営について貴重な情報を得ることができました。

■バスでの移動の様子

■シャングリラパーク視察

■クラークホースガーデン視察

平成19年度の取り組み

エゾカンゾウの植栽

　平成 18 年度の「エゾカンゾウの植栽」の取り組みを平成 19 年度も継続して行いました。６月は植え替え、７月は種を採取するための網掛けの作業を行い、10 月には種の採取、プランターへの種まき、苗の植栽を行いました。
　小平小学校４年生の総合学習との連携など、新たな活動のあり方を試行しました。

■種子の採取

■採取した種をプランターにまく

■苗の植栽

ヒマワリ・菜の花クリーンエネルギー

　沿道を花で飾るとともに、植物由来のエネルギーの活用に向けた試行的取り組みとして、ヒマワリ、菜の花の植栽に取り組みました。まず、６月にヒマワリを植え、秋に刈り取りすきこんだ後に菜種の種をまきました、場所は、遠別町および羽幌町の２箇所の国道沿いで行いました。平成 20 年の春には、菜の花を採取し、菜種油を精製する取り組みを行います。

■ヒマワリの種まき
（平成 19 年 5 月 17 日）

■見事に花開いたヒマワリ
（平成 19 年 8 月）

■菜種の種まき
（平成 19 年 10 月 4 日）

萌天の森づくり

環境に配慮したドライブ観光の推進や、豊かな生態環境の創出、特徴のある木材製品づくりなどを目的として、「萌天の森」づくりに取り組みました。萌天の森の第１号は、遠別町の国道 232 号の近く。平成 19 年７月の「日本海の食と景観を楽しむ旅」とあわせて第１回の植栽を、10 月に第２回目の植栽行いました。萌天の森の一部は、シーニックバイウエイ支援センターが進めるカーボンオフセットの取り組み、「シーニックの森」として登録しています。

■萌天の森づくり
（平成 19 年 7 月 22 日）

■一部はシーニックの森となっています

■萌天の森づくり
（平成 19 年 10 月 30 日）

日本海の食と景観を楽しむ旅（平成 19 年 7 月 21～22 日）

シーニックバイウエイ支援センターと地元の共同企画として、ルート内の魅力的な資源や食材を紹介する試行的なバスツアーを実施しました。ツアーでは、ルートの幹事が中心となって、増毛町の国稀酒造、サクランボ園、小平町の鰊番屋、苫前町のウインドヒルファーム（風車郡）等を紹介したほか、海鮮丼、エビタコ餃子、フグなど地元の特産品を提供しました。また、遠別町ではツアー参加者による「萌天の森づくり」を行いました。

■国稀酒造の見学（増毛町）

■小平鰊番屋の見学（小平町）

■フグのお刺身（遠別町）

道の駅初山別ロマン街道オープニングイベント（平成 19 年６月１日）

ルートで６番目の道の駅となる「初山別ロマン街道」が平成 19 年６月１日にオープンしました。オープニングイベントでは、管内オリジナル道の駅弁などが販売されましたが、これらのブースと並んで「萌える天北オロロンルート」ブースも設置。フォトコンテストの受賞作品の展示やパネル展をおこなったほか、「ヒマワリ・菜の花クリーンエネルギー」の取り組みとも連携して、ヒマワリの種のプレゼントなどを行いました。

■セレモニーの様子

■道の駅弁などの販売

■萌天ブースの状況

道の駅フェスティバルでのPR活動（平成 19 年９月 6～11 日）

ルートの道の駅特産品を PR する「道の駅フェスティバル」が、札幌市の東急百貨店で開催され、同時に萌える天北オロロンルートの PR も行いました。会場では、小平町・苫前町・初山別村・遠別町・天塩町の５町村の特産品を販売し、中でも天塩町のシジミボイル、小平町のタコ皮ジャーキーなどが人気を集めていました。萌える天北オロロンルートでは、今後も札幌や旭川など他地域での地場産品販売に協力しながら、ルートを紹介していく予定です。

■オビラージュワイン（小平町）の試飲

■シジミボイル（天塩町）の販売

■テレビ中継時の様子

旭川冬まつりでのPR活動（平成 20 年 2 月 7～11 日）

世界に誇る大雪像や氷彫刻あかりの芸術を中心とした「旭川冬まつり」会場に萌える天北オロロンルートが PR に乗り込みました。会場では、ルート内 9 市町村の特産品をはじめ、地場産材を使った『おしるこ』の販売や餅つき大会なども実施しました。内陸の旭川の皆さんに、ルートでとれた海産物は大変好評でした。

■パネル紹介の準備

■イベント会場の様子

■旭川市民で賑わう萌天ブース

情報提供の取り組み

ルート情報誌

ルート参加団体への情報提供と参加契機の提供、および一般への周知・PR を目的として、ルート情報誌を製作、配布しました。配布にあたっては、ルート参加団体へは団体ヒアリング調査時に配布、説明を行いました。一般の方へは、各地域のイベントにおいてパネル展実施とあわせて配布しました。主に連携活動の様子や参加団体の情報提供などを内容としています。

■ルート情報誌の紙面内容

市町村広報誌記事掲載

ルート情報の効果的な周知・PR を目的として、留萌管内 9 市町村の広報誌に、ルートとしての共通記事を掲載する取り組みを行っています。記事は A4 の四分の一程度の大きさで、連携活動や各傘下団体の取り組みを各月ごとに特集して掲載しています。

記事の掲載にあたっては、各市町村担当幹事が市役所、役場と調整し、平成 19 年 1 月号から現在まで続けています。

■1 月号掲載記事

■3 月号掲載記事

ルートブログ

シーニックバイウェイ北海道および萌える天北オロロンルートの活動を周知することを目的として、ブログによる情報提供活動を行っています。

内容としては、「ルート内の取り組み」「みどころ発見！」「各団体からのお知らせ」「イベントスケジュール」などを随時更新しています。

■ブログの内容（トップページ）

■ブログの内容（記事）